

カアホナ

表紙の記事—

バランスの取れた
生活のもたらす力,
38ページ

両親と話す方法, 18, 22ページ

見つかったら困ることはしていませんか?
26ページ

聖文の登場人物を自分に当てはめる,
「フレンド」12ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ディーター・F・ワークトドルフ, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・ウィック

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:ゲアリー・J・コールマン, 菊地良彦, ジェラルド・N・ランド, W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター:ピクター・D・ケープ

主任編集者:ラリー・ヒラー

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー, アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・パレット

編集スタッフ:クリスティー・バンス, リンダ・ステール・クーパー, デビッド・A・エドワーズ, ラリー・ポーター・ガント, キャリー・カステン, ジェニファー・マディン, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ジョシュア・J・パーキー, キンバリー・リード, リチャード・M・ロムニー, ドン・L・サル, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワデー

主任秘書:ローレルトイスマー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロウ, コレット・ネバカー・オーヌ, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーテッド, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, エリック・P・ジョンソン, デニス・カービー, ギニー・J・ニコルソン, ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター:クレーク・K・セジウィック

配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小若5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30 電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共) 半年予約 1,200円(送料共) 普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。 Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA 電子メール: liahona@ldschurch.org

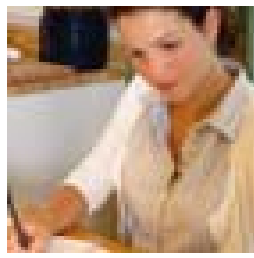
「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, ウルドゥー語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリヤン語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, ス페인語, スロベニア語, セブアン語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, ヒスラマ語, ヒンディー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, トラビブ語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。) ©2008 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本 「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用することは複写することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。 「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada: February 2008 no. 2 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



14 怒りを抑える



38 バランスの取れた生活を送る

表紙 写真/ロバート・ケーシー, 写真はイメージです 「フレンド」表紙 絵/ジム・マドセン

一般

- 2 大管長会メッセージ——主の子羊を養う ヘンリー・B・アイリング管長
14 怒りを抑える ダグラス・E・プリンリー
25 家庭訪問メッセージ—— 家族は創造主の計画の中心を成すものである
26 モルモン書からの教訓——自由と永遠の命を選ぶ クレーグ・A・カードン長老
29 人生を変えてくれた指導者としての奉仕
38 バランスの取れた生活を送る ロバート・F・オートン長老
44 末日聖徒の声 ライチャンフィンリン 尋ねる勇気 頼張恵玲 警告の声 サンドラ・ゲーツ 祝福が必要でした イェベス・ラオエリーナ 二つの証の力 キャシー・トルーマン
48 読者からの便り

26

モルモン書からの教訓



家庭の夕べのためのアイデア

以下の提案は、家庭だけではなくクラスでのレッスンにおいても役立てることができます。皆さんの家庭やクラスに合わせて変更を加えてもよいでしょう。

「瞬時の決断」8ページ——犠牲を払うには、より良いものを得るために良いものをあきらめなければならないときもあることについて話し合います。犠牲を払うときに天の祝福を受けることを説明します。ウーゴの話を読み、犠牲を払ったことにより彼がどのような祝福を受けたかについて話し合ってください。

「自由と永遠の命を選ぶ」26ページ

——クレーグ・A・カードン長老の経験をお話します。家族の一人一人に、教育、財政管理、食事などからテーマの一つを選び、その分野で良い選択をすると、より大きな自由を得られるということについて具体例を書いてもらいます。各自の例を発表してもらいます。わたしたちには行動を選ぶ自由があるが、その結果は選べないということを強調して伝えてください。

「バランスの取れた生活を送る」38ページ——幾つかの大きな物を積み重ね、家族の一人に持ってもらいます。バランスを取るのに苦労した



今月号のどこかに隠れている
フランス語のCTRリングを探しながら、
聖文を勉強することが、
どのように正義を選ぶのを助けてくれるかを
考えてみましょう。



青少年

8 瞬時の決断

ウーゴ・ダ・クーニャ・
シウバントス・ロドリゲス

11 奉仕の機会は失われず

ピーター・ジェームズ・マレツリ

18 父との会話

カーステン・ジョンソン

21 ポスター——声に出して祈りましょう

22 質疑応答——

時々、母とうまくいかないことがあります。言うべきでないことを言い合って、結局、気持ちを傷つけてしまいます。母を愛せるように祈っていますが、良い気持ちはあまり長く続きません。母との関係を改善するにはどうしたらよいでしょうか。

34 証を得る

ポール・K・シブラウスキー長老

43 御存じでしたか？

18 父との会話



8 瞬時の決断



ら、それらの物を入れるバッグかバスケットを渡してあげます。それらの物はわたしたちの抱える責任で、バッグなどに入れるのは重荷を主に預けることだと説明します。「御霊の導き」の項の内容についてお互いに意見を出し合ってから、主が助けてくださるよう行動するなら、どのようにバランスの取れた生活を送れるかということについて話し合ってください。

「わたしの家族歴史に起こったきせき」 F6ページ——少し手間のかかるおいしいもの(クッキーなど)を家族みんなで作ります。この話を声に出して読みます。その際、父親と息子が、忍耐して待つから初めて、先祖の名前を見つけることができたという点を

強調します。このことは、おいしいものが口に入るまで我慢して待つことと、どのように似ているでしょうか。自分の家族歴史の探求を始めるため、または続けるために家族歴史図書館に行く計画を立てましょう。

「ニーファイのように」 F12ページ——ターニャの話をして。家族と一緒に祖國を離れたとき、ニーファイはどのような行動を取ったかを話し合ってください(1ニーファイ2:16参照)。家族一人一人の生活の中で、ニーファイの模範を生かせるような経験はあるでしょうか。

F2 預言者の声——義務を果たしなさい

トーマス・S・モンソン 管長

F4 分かち合いの時間——読むたびにうける力

リンダ・クリステンセン

F6 わたしの家族歴史に起こったきせき

マシュー・マンガム

F8 ちいさな みんなのために——

かみさまに したがる

リーハイとニーファイ

バル・チャドウィック・バグレー

F10 よげんしゃジョセフ・スミスの

しょうがいから——ジョセフの足のしゅじゅつ

F12 ニーファイのように

シェラリー・B・ハーディー

F15 特別な証人——

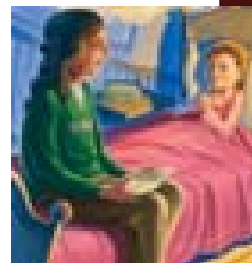
聖文研究から

もっと祝福を受けるには

どうすればよいでしょうか？

ヘンリー・B・アイリング 管長

F16 色をぬりましょう



F12 ニーファイのように

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略	しゅうぶん	29
愛, 14, 22	初等協会, F4	
証, 18, 34, 47	神権の祝福, 46	
怒り, 14, 22	救いの計画, 25, 26	
祈り, 21, 22, 38, F12	スミス, ジョセフ, F10	
音楽, 21	正義を選ぶ, 8, 26	
改宗・改心, 34	聖文, F4, F15, F16	
家族, 14, 18, 22, 25	聖霊, 34, 38, 45	
家族歴史, F6	選択の自由, 26	
家庭の夕べ, 1	知恵の言葉, 26	
犠牲, 8	伝道, 8, 11	
義務, F2	伝道活動, 44	
教育, 43	バランス, 38	
悔い改め, 14, 22	扶助協会, 25	
子育て, 18	奉仕, 11, 29	
シオン, 43	ホームティーチング, 2	
自制心, 14	モルモン書, 26, 47, F8,	
指導者の責任, 29, 43	F12	
従順, 11, F8	ゆる	22
	赦し, 22	

主の子羊を養う



大管長会第二顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

救い主はペテロをはじめとする十二使徒ならびに弟子たちに対して、人々を養わなければならない理由とその方法を教えられました。ご承知のように、主は彼らを教える前にまず、食物をお与えになったことが聖書に記録されています。主は十字架^{しもべ}上ではりつけにされて亡くなり、その後、復活されました。僕たちはガリラヤへ行っていましたが、何もとれませんでした。朝方、岸边近くに帰って来ると、彼らは主を見つけましたが、最初はだれか分かりませんでした。その御方は彼らに声をかけて、指示した所に網を下ろすように言われました。彼らが言われたとおり網を下ろすと、網いっぱい魚が入りました。弟子たちは、一刻も早くその御方に会うために急いで岸に向かいました。

弟子たちは、炭火がおこしてあって、その上に魚のせてあり、またそこにパンがあるのを見つけました。わたしは、だれが炭火をおこし、魚をとり、食事を準備したのだろうかと思いつきました。それは、魚やパンよりも大切な食べ物を頂く備えを弟子たちにさせるために主がなされたことでした。主は弟子たちにまず

食べ物をお与えになりました。その後、霊的な食物を与えることを彼らに教えられました。そこで主が弟子たちにお与えになった戒めは、わたしたち一人一人に向けられたものでもあります。

「彼らが食事をすませると、イエスはシモン・ペテロに言われた、『ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか。』ペテロは言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたをご存じです。』イエスは彼に『わたしの小羊を養いなさい』と言われた。」(ヨハネ 21:15)

わたしたちが交わした、養うという聖約

神の聖徒はお互いを霊的に養うという聖約、特に福音に帰依して間もない人々を養うという聖約を交わしています。わたしたちは恵まれて、忠実な聖徒たちが新会員を養う力を強めなければならない時代、それゆえ聖徒たちにはその力が豊かに与えられる時代に生きています。この力は以前にも主の民に与えられていました。かつて主の民がどのように人々を養ったか、その様子がモルモン書の中に記されています。「人々は……[民の中に]数えられ[た。]……それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ、そして彼らを正しい道にとどめるため、また絶えず祈りを心に留めさせ、彼らの信仰の創始者であり完成者であるキリストの功德にだけ頼らせるためである。」(モロナイ 6:4)

神の聖徒は
お互いを霊的に養うよう、
特に福音に帰依して
間もない人々を
養うという聖約を
交わしています。





わたしたちは皆、だれかほかの人の信仰を養おうと努力したことがあるはずです。ほとんどの人は、信仰が弱まることのないようにだれかが心配してくれていることに気づいて、その人たちの愛を感じたことがあると思います。自分を見上げる子供から「一緒に教会へ行こうよ」あるいは「わたしと一緒に祈りして」などと言

聖霊はわたしたちの伴侶となって

くださいます。すると、何を話したらよいだらうかという恐れや拒否されるのではないかという恐れが消え去ります。そして、新会員がもはや見知らぬ他人ではなくなります。



葉をかけられたことがある人も決して少なくないと思います。また、わたしたちは失望を経験することもあります。愛する人々は、彼らの信仰を強めようとするわたしたちの働きかけを必ずしも受け入れてくれるわけではありません。養いを受けることはしないという神の子供たちの選択を神が尊重しておられることを、わたしたちは心の痛む経験を通して知っています。けれども、今こそわたしたちは、自分たちの持つ、人を養い育てる力が強められるという明るい希望を新たにすべきなのです。

主は、バプテスマの水に入る大勢の改宗者を守られることを、生ける預言者を通じて明らかにしておられます。主はわたしたちを通してそれを実現されます。したがって、単純なこと、子供にでもできる事柄を通して、信仰が確立していない人々を養うための力がわたしたちにさらに増し加えられると確信することができます。

そのためにはまず、自分自身の心から始め

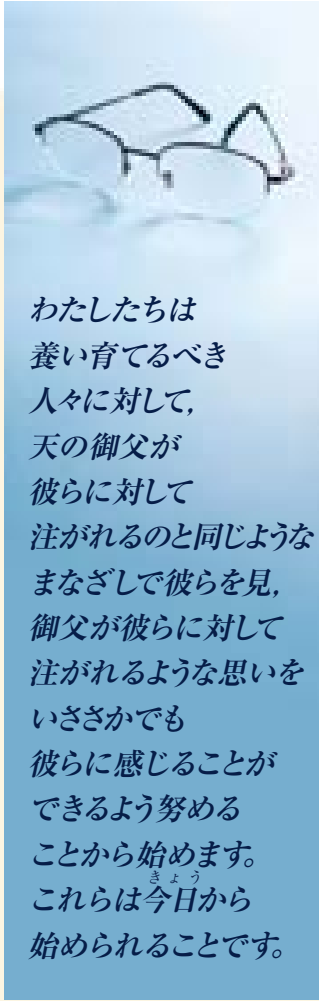
なければなりません。聖霊を伴侶とする権利にあずかれるかどうかは、わたしたちの心からの望みに大きく左右されます。聖霊の助けなしに、霊的に養い育てることは不可能です。わたしたちは養い育てるべき人々に対して、天の御父が彼らに対して注がれるのと同じようなまなざしで彼らを見、御父が彼らに対して注がれるような思いをいささかでも彼らに感じることができるよう努めることから始めます。これらは今日から始められることです。

教会に入ったばかりの人々は天の御父の子供たちです。天の御父は彼らを知っておられ、彼らは前世で御父を知っていました。天の御父と、その御子である主イエス・キリストの目的は、子供たちが御父のもとに戻って永遠の命を受けることです。彼らは自分で選びさえすれば、永遠の命を得ることができるのです。彼らを見いだし、教え、バプテスマを施すため、御父は



宣教師たちを聖なる御霊によって導き、支えてこられました。御父は御子に彼らの罪の代価を支払うことをお許しになりました。天の御父と救い主は、わたしたちには推し量ることのできない代価で買い取ったこれらの改宗者が未熟な子羊であることを知っておられます。

この世で親となる経験を持った人々は、愛にあふれる天の御父の心情を多少なりとも理解することができるでしょう。子供たちが成長し



てわたしたちの直接の保護下から離れなければならぬ年齢になると、はたして子供たちが安全に暮らせるかどうかを不安に思い、子供たちを助ける立場にいる人々が間違いなく助けてくれるかどうかを心配します。わたしたちは天の御父と救い主が新会員に対して抱いておられる愛の気持ちと、彼らを養い育てるわたしたちに寄せておられる信頼を少なくともある程度は察することができます。

御霊に頼る

新会員に対してこのような愛の気持ちを持つことによって、わたしたちは御霊の助けを受けるための条件を十分に満たすのです。御霊の助けがあれば、この神聖な責任を果たす際の妨げとなる恐れを克服することができます。他人の信仰を養うという責任を果たすだけの力が自分にはないと恐れるのは賢明なことです。どれほど優れた能力を持っているとしても、自分の力だけでは十分とは言えません。けれども、自分の限界を現実的にとらえることによって、謙遜な^{けんそん}気持ちが生じます。すると御霊に頼らざるを得なくなり、それによって力を受けることができます。

ブリガム・ヤング大管長(1801 - 1877年)は、たとえ弱点があっても勇気を持つようにと述べています。「衆衆に話をすることに当たって、話し手がわずかのことしか言えず、しかも言葉が稚拙^{ちせつ}でも、心が神の前に純粋であれば、わずかなまづい話も主の御霊の伴わないどんな雄弁な話よりも価値があり、神、天使、すべての善良な人の目から見てもほんとうの価値があります。祈りにおいても言葉が少なく、表現がまづくても、心が神の前に清ければ、その祈りはキケロ〔ローマの雄弁家、紀元前1世紀〕の雄弁にも勝ります。わたしたちすべての父である主は、わたしたちの表現の形式のどこを気にされるといのでしょうか。主にとっては人の造り出す虚飾、誇り、華麗さ、雄弁よりも、気取らない、正直な心の方がはるかに価値があります。主がまったく誠実そのもので、高潔で、子供のように飾りけのない心の持ち主を見かけるなら、主は、『これこそわたしの王国の霊、わたしが子らに与えた霊である』と言われるでしょう。これは永遠に通用する原則です。』¹

わたしたちは子供の行いから、人々の信仰を養う力を得ることがあります。子供たちは、最近改宗した人を誘って一緒に集会に出席することができますし、礼拝堂やクラスに来た新会員にほほえみを投げかけ、歓迎することができます。

わたしたちは
養い育てるべき
人々に対して、
天の御父が
彼らに対して
注がれるのと同じような
まなざしで彼らを見、
御父が彼らに対して
注がれるような思いを
いささかでも
彼らに感じる事が
できるよう努める
ことから始めます。
これらは今日から
始められることです。

わたしたちも同じことができます。そのように行なうなら確かに、聖霊はわたしたちの伴侶となってくださいます。すると、何を話したらよいだろうかという恐れや拒否されるのではないかという恐れが消え去ります。そして、新会員がもはや見知らぬ他人ではなくなります。聖霊は、わたしたちが福音の真理について話す前から、彼らを養うための働きかけをしてくださいます。

思いやりをもって手を差し伸べることで新会員を養うのに特別な召しは必要ありません。会員であれば、それで十分です。福音を教えたり、宣べ伝えたりする召しを受けていなくとも、わたしたちにその準備ができていれば神の善い言葉によって人々を養うことができます。新会員に言葉をかける度に、クラスの話し合いに参加する度にそれを行うことができます。人々を養い、強めるような言葉を話せるように、御霊の助けを受ける必要があります。

助けを受けるための二つの鍵

人々を養ううえでどのような言葉を使ったらよいかという点で御霊の導きを受けられるようにするには、二つの非常に大切な鍵となる事柄があります。それは、毎日聖文を研究することと信仰による祈りをささげることです。

わたしたちが毎日聖文を研究し、深く考えていれば、聖霊は何を話すべきかを知らせてくださいます。聖文の言葉が聖なる御霊を招くのです。主はこのことを次のように述べておられます。「わたしの言葉を告げようとしないで、まずわたしの言葉を得るよう努めなさい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、あなたはわたしの御霊とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。」(教義と聖約11:21) 毎日聖文を研究することによって、普段、人と話すときやクラスで教師から質問されたときにもこの祝福に頼ることができます。主が約束しておられる次のような力を体験することができます。「また、あなたがたは



御

父の子らを
養いたいという
純粹な
気持ちから、
聖霊を伴侶として
与えられるように
真心を込めて
絶えず嘆願するならば、
わたしたち自身と
わたしたちが
愛し仕える人々に
様々な祝福が
もたらされることでしょう。



何を言おうかと、前もって思い煩ってはならない。ただ絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。そうすれば、それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。』(教義と聖約84:85)

聖文の言葉を読むだけでなく、研究することによって神の言葉を大切に蓄えるのです。章全体の言葉だけを急いで読むよりも、短い章句について深く考える読みの方が多くの養いを受けることができます。聖霊が神の言葉をわたしたちに大切に蓄えさせてくださるからです。

聖文を深く考えることと同様に、毎日祈り求めることによって聖霊を招くことができます。わたしたちが祈りを通して願い求めなければ、聖霊はなかなか訪れてはくださらないでしょうし、

嘆願しなければ、わたしたちのもとにとどまってはくださらないでしょう。『御霊は信仰

の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。』(教義と聖約42:14) 御父の子らを養いたいという純粹な気持ちから、聖霊を伴侶として与えら

れるように真心を込めて絶えず嘆願するならば、わたしたち自身とわたしたちが愛し仕える人々に様々な祝福がもたらされることでしょう。

人々を養うために必要な神の善い言葉とは、福音の単純な教義を指しています。教義の単純さや繰り返しを恐れる必要はありません。主は、その教えがどのように人々の心にしみ込んで彼らを養うかを自ら説明しておられます。

「これから述べるのがわたしの教義であり、父がわたしに与えてくださった教義である。わたしは父のことを^{あかし}証し、父はわたしのことを証され、聖霊は父とわたしのことを証する。父は、どこにいる人でもすべての人に、悔い改めてわたしを信じるように命じておられることを、わたしは証する。

わたしを信じてバプテスマを受ける者は、だれでも救われる。神の王国を受け継ぐのはこれらの者である。

また、わたしを信じないでバプテスマを受けない者は、だれでも罰の定めを受ける。

まことに、まことに、あなたがたに言う。これがわたしの教義である。わたしは、父から告げられたとおりにこれを証する。わたしを信じる者は父をも信じるのである。その者に、父はわたしのことを証されるであろう。父はその者に火と聖霊を与えられる。』(3ニーファイ11:32-35)

主はさらに続けて、その単純な教義によって養われ、堪え忍ぶ人々、日の栄えの王国を受け継ぐ人々は、^{おきなこ}幼子のような人々であると述べておられます。御霊の励ましを感じ取り、御霊が命じることに従い、そして従順であるためには幼子のような心を持つことが必要です。それこそ、神の善い言葉によって養われるのに必要なことです。

信仰が未熟な子羊

新会員を養うという責任を果たすことについてわたしたちが楽観的でいられるのは以上のような根拠に基づいているからです。教義をどれほど多く知っているか、あるいはほとんど知らないかということに関係なく、彼らはへりくだってバプテスマの儀式を受け、聖霊を伴侶とする権利を受けました。信仰が非常に未熟な状態のときに、彼らは救い主から求められていることを喜

んで行くことを示そうと心に決めて、救い主のもとへ来たのです。救い主はそのような人々を子羊と呼ばれたのです。

彼らに新会員として求められるすべての事柄を明確にまた愛をもって説明し、教会で奉仕する機会を賢明な形で与え、慈愛をもって彼らの奉仕の働きを評価し、忍耐強く励ましながら養うならば、彼らは聖霊を伴侶とすることによって強められます。そして、わたしたち自身の力を超えた力によって養われるのです。彼らがこうして堪え忍ぶとき、地獄の門でさえも彼らに打ち勝つことはできないでしょう。

ブリガム・ヤング大管長は彼らの堪え忍ぶ力がどれほど強められるかについて次のように約束しています。「主の前にへりくだって、真心から喜び進んで主を待ち望む人々は、少しずつ、教訓に教訓、規則に規則、ここにも少し、そこにも少しと与えられることでしょう。ジョン・テラー〔兄弟〕の言葉を借りれば、ある一定の量に達するまで、『それが繰り返される』のです。その後、彼らは受けたものを養い、自分の中にとどめておかなければなりません。それによって、あらゆる善い思い、教義、原則を取り入れ、善い業を最善を尽くして行う

ことができ、やがて主が、その人の中で、永遠の命に至る水のわき出る井戸となってくださるのです。』²

モロナイ書にある次の聖句にはそのような意味が込められています。「彼らの信仰の創始者であり完成者であるキリストの功德にだけ頼……る。」(モロナイ6:4) 主御自身の贖罪しよぐいにより、また主の戒めに従うことを通してわたしたちが清められるのは救い主のおかげです。また、信仰をもってバプテスマの水に入り、聖霊の賜物を受け人々を養ってくださるのは救い主です。彼らがいつも主を覚えるならば、そして幼子のような従順さをもって絶えず主を覚えているならば、救い主は常に主の御霊を受けられるようにして下さいます。

皆さんもわたしも小さな手段によって、偉大な業の一翼を担うことができます。わたしたちは聖霊を伴侶とすにふさわしい者となるよう福音を研究し、祈り、奉仕します。するとわたしたちは、新会員が天の御父の愛されている大切な子供であることを理解できるようになります。彼らに愛を示し、奉仕する機会を提供し、神の善い言葉によって養いたいという気持ちになります。そして、偉大な宣教師であったアンモンが同僚に述べたことを理解するようになります。なぜなら現代に生きるわたしたちも、全世界の宣教師たちとともに働いているからです。

「見よ、畑は熟していた。そして、あなたがたは鎌を入れ、力を尽くして刈り入れ、まことに一日中働いたので、あなたがたは幸いである。見よ、あなたがたの得た束は何と多いことか。それらの束は、無駄にならないように倉あらしに納められるであろう。

まことに、それらの束は終わりの日に嵐に打たれることなく、旋風に巻き上げられることもない。嵐が来るときに、それらの束はそのあるべき場所に集められるので、嵐がその束に吹きつけることはない。まことに、敵が追いやろうと思う所に暴風で押しやられることもないであろう。

しかし見よ、それらの束は収穫をつかさどる主の御手みての中にあり、それらは主のものである。主は終わりの日にそれらの者をよみがえらせてくださる。」(アルマ26:5-7)

わたしたちは従順という飾らない行いを通して主のお役に立つことができます。子羊、すなわち主の子羊をその御手に連れて行き、御腕みうでに抱かれたまま御父の住まい、すなわち彼らとわたしたちの御父の住まいに連れて行く手助けができるのです。わたしたちが人という神聖な収穫を大切に守ろうと努力するときに、神は天の力を注いでくださることをわたしは知っています。■

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 家族に最初の3段落を読んでもらってから次の質問をする。「主が弟子たちを教える前に彼らに食物を与えられたのは、なぜだと思いますか。わたしたちのワード(または支部)の中で、新会員を強めるにはどうしたらよいでしょうか。」

2. 福音の教義の中で、もし従うなら、あなたが知っている人々にとって祝福となるものについて家族と一緒に考え、幾つかを挙げる。どのようにしたらそれらの人々にその教義を伝えたり、ともに実践したりできるか話し合う。

3. 訪問する家庭に子供がいる場合、子羊の写真を見せる。次の質問をする。「なぜ子羊を見守り、世話する必要があるのでしょうか。」人々も、子羊のように助けが必要なときがあることを説明する。福音を伝える、友達になる、困っている人を助けるといったことは、良い羊飼いが羊のために行うことと似ている。簡単な奉仕の行いをするにより、隣人や友達、家族を助ける計画を立てる。

注

- 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』165
- “Discourse,” *Deseret News*, 1857年3月25日付, 21

瞬 時 の

サッカーを通して
瞬時に決断することを学んだわたしに、
自分の夢を選ぶか、
主の御心を選ぶかの
決断をする瞬間が
やって来ました。

ウーゴ・ダ・クーニャ・シウバントス・ロドリゲス

物 心ついたときから、そばにはいつもサッ
カーボールがあり、わたしはプロの選手
になることを夢見ていました。この夢を

追いかけるわたしを両親も応援してくれました。両親は
また、教会へ行くようにも勧めました。しかし大きくな
ると、教会には試合がないときにしか行かなくなり
ました。福音
や教会の活
動、友達が生
活の中で大きな
助けになることは知っていましたが、自
分がほんとうに求めていたのはサッカーの夢を実現
することでした。

練習を重ねるうちに、有名なサッカークラ
ブに所属する友達と親しくつきあうよう
になりました。そのようなクラブの幾
つかでプレーしたり、練習に出させ
てもらったりするようにもなりました。
大会に出るためにいろいろな
国へ行きました。プロのサッカー選
手として人生を送れるかもしれないと
思うと胸がわくわくし、うれしくなりまし
た。あるとき参加したアジアへの遠征旅
行では、夢がかなう一歩手前まで行きま
した。大きなクラブがわたしのプレーを気
に入り、入団を勧めてくれたのです。しか
し、交渉をしてくれたわたしの代理人が幾
つかの問題があることに気づき、結局契約
は結びませんでした。

家に戻ると、友人たちが伝道に出る
ための書類を準備していました。また、

決 断

伝道から帰って来て、宣教師であることがどんなことかを熱意を込めて話してくれる友人もいました。話すときに、彼らはいつも感動して目を潤ませていました。強い御霊みたまにあふれていました。自分も伝道に出たいと思いました。同じ経験をしてみたかったのです。しかし伝道を選んだら、サッカーの夢は実現しなくなると思い、心配になりました。体力が落ち、動きも鈍くなってしまうからです。プロになるという願望はとてつもなく大きなものでした。進学を先送りにし、練習を続け、この夢を実現するためだけに生きてきたのです。

サッカーの遠征には、いつもモルモン書を持って行きました。預言者の言葉や生き方、戒めを守る決意、民に示した良い模範などが大好きでした。わたしは仲間の選手に対する良い模範となっていないことや、神のことを第一にしていないことを恥ずかしく思っていました。自分の信仰を伝えようとしたこともありましたが、返ってくる言葉はいつも決まっていました。「遠征がつまらなくなるよ。そんなくだらないことは忘れて、楽しくやろう。」わたしはうわさ話や不誠実、そしてサッカー生活の別の部分に嫌げがさしてきました。孤独で寂しい思いを何度もしました。そして、いつも幸せになれる場所、わたしを大切にしてくれる友達がいる場所があるということが分かりました。一緒に活動やダンスに参加し、セミナーやインスティテュートに通った日の栄えの友達のことです。そうした活動や友達が懐かしくてたまらなくなりました。

伝道の召しが
家に届くと、
家族が
集まりました。
わたしもみんなも
大喜びでした。
そこへ電話が
鳴りました。
それは
代理人からで、
好条件のオファーが
来ているというのです。



伝道を通して、
幸福になる
最良の方法は
天の御父が
望まれるように
行動することだと
分かりました。
伝道は
人生最良の選択でした。

遠征のなかったある日曜日、わたしはブラジルで自分が所属するワードに行きました。集会が終わってからビショップに呼ばれ、ビショップ室で話をする事になりました。間違いなく伝道の話になると思いました。同い年の人は皆伝道を終えていたからです。ビショップは伝道に出るよう勧めました。わたしはまだ準備ができていないと言い、話題を変えようとした。何とかしてこの場から逃れようとしたが、ビショップは根気よく説得を続け、わたしも伝道に出ることは大切だと思うようになりました。最後に、わたしたちは伝道の準備に向けた目標を設定しました。

数か月後に申請用紙を出しましたが、同時に練習は続けていました。とりあえず、頭の中ではサッカーと教会を何とか両立させていました。しかし、そんな状態は長く続かないということをもっと理解していませんでした。わたしは選択に迫られることになったのです。

伝道の召しが家に届くと、家族が集まりました。わたしもみんなも大喜びでした。そこへ電話が鳴りました。

それは代理人からでした。ヨーロッパのクラブから好条件のオファーが来ているということです。わたしの想像は膨らみました。試合に詰めかけた観衆でいっぱいのスタジアムが目に見え、自分のものになるであろう美しい家や車、年俵が頭をよぎります。わたしの夢はもう目の前です。手を伸ばせばつかめるのです。それから、電話の横に置いた伝道の召しの手紙を見詰めました。

涙が込み上げてきました。一瞬のうちにこれまでの人生が走馬灯のように流れ去りま

した。電話の向こうで代理人がわたしの答えを待っています。わたしは黙っていました。声が出ませんでした。足が震えていました。この瞬間がうそであってほしいと思いました。しかし現実でした。決めなければなりません。これまでの人生で下したどんな決断よりも難しい決断です。

ついにわたしは震える声で、もっと良い契約をもうしていると伝えました。2年間、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師になるのです。わたしは代理人にこの話を持って来てくれたことと、わたしのために力を尽くしてくれたことへの感謝を伝えました。そして電話を切り、自分の部屋へ入ると長い間泣きました。2年もたったからこんな機会はもうやって来ないということ、そしてサッカー選手になるという自分の夢はもう終わったのだということが分かったのです。

わたしはひざまずき、天の御父に慰めを求めて祈りました。すると、静かで優しい声がわたしの心に安らぎを与え、次のように答えてくださるのを感じました。「息子よ、あなたはもう世界最高のチームの一員なのですよ。」わたしはこの言葉について深く考えました。今でもまだ考えています。

ブラジル・フォルタレザ伝道部から帰還したわたしは今、自分の選択をまったく後悔していません。イエス・キリストの真の教会が、幸福になりたいと望むすべての人のために存在しています。伝道を通して、幸福になる最良の方法は天の御父が望まれるように行動することだと分かりました。伝道は人生最良の選択でした。まず神の国を求める人は皆、主のチームの一員になれるということを学びました(マタイ6:33参照)。■



奉仕の機会は 失われず

専任宣教師
としての
奉仕からは
名誉の免除
となりましたが、
有意義な方法で
仕えることが
できました。

ピーター・ジェームズ・マレツリ

初等協会、若い男性のころから、わたしは教会の専任伝道宣教師として奉仕するために準備してきました。ただ伝道に出るのではなく、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老が勧告したように、宣教師になることが目標でした。¹ところが医療上の問題があったため、専任宣教師としての伝道に伴う負担に耐えることはわたしにとって最良ではないという知らせを宣教師管理部から受けました。苦々しく思うのはたやすいことでしたが、救い主に仕える^{みこころ}備えをしていたわたしは、自分に対する主の御心を受け入れる備えもできていました。

自分に与えられた機会

わたしが受けたのは名誉の免除と言うものでした。それは、教会の指導者たちがわたしに伝道するふさわしさと望みがあることを認め、ほかに方法を勧めてくれたということです。専任宣教師として奉仕できないほかの多くの人と同じように、わたしは単に「くじけず生きる」以上のことをするようにという促しを感じました。奉仕がしたかったのです。ですから、そのとおりにしました。わたしは地元の教会奉仕宣教師になりました。ビショップとステーク会長の助けを受け、自宅で生活しながら主に奉仕する道を見いだしたのです。

教会の視聴覚部で補助が必要でした。わたしはソルトレーク・シティ

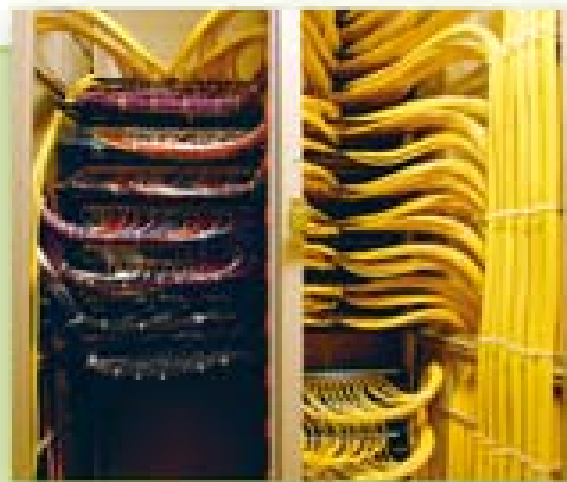
の教会管理本部の近くに住んでいたの、通うことができました。ステーク会長はわたしを召して任命し、奉仕する1年間に守るべき特別な規則を作ってくれました。規則は厳しいものに思われましたが、従うときに祝福されることが分かりました。ほかのステーク会長は奉仕宣教師に別の規則を定めているかもしれませんが、わたしが従ったのは次のものでした。



**ケーブルを巻く
仕事でも、
放送の
補助をする仕事でも、
教会奉仕伝道は
自信と尊敬の念を
培うのに役立ちました。
難しくて
骨の折れる事柄に
取り組みながら、
わたしは
主からの影響力と
助けを感じました。**

1. 毎日のスケジュールに従う。起床は午前6時半、聖文および『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を毎日2時間勉強する、毎日30分間運動する、就寝は午後10時半。
2. 教会の服装規定に従う。
3. クラシック音楽または教会の音楽のみを聴く。
4. パソコンの使用は電子メールに限定する。テレビの視聴は制限、テレビゲームはしない。
5. グループ活動にのみ参加、デートはしない。
6. 毎月、ビショップと面接する。

摂氏38度にもなるビルの地下にある狭い空間で一日中作業をしていると、これが人の不死不滅と永遠の命をもたらすこととどう関係があるのだろうかと思うときがありました(モーセ1:39参照)。わたしはほんとうに世界中で福音を伝えるチームの一員なのだろうか。同胞のために務めるのは神のために務めるので



要だと学びました。伝道とは、主が行う必要があると思っておられることを学ぶ機会です。召されている間、わたしは照明器具の設置や取り外し、集会での音響操作、機材の運搬といった作業の補助をしました。重労働で汚れる作業です。これからは、総大会を何の苦労もなく視聴できることのありがたみを決して忘れることはないでしょう。実際、大会の放送を見ると、これが大変な労働の上に成り立っていることを思い出し、全身が痛くなります。

宣教師の奉仕とは働くこと

教会奉仕宣教師だったとき、わたしは時間を守ること、責任を持つこと、仕事をきちんと終えること、最善を尽くすことの大切さを学びました。両親は、わたしにこうしたことを教えようとしてくれましたが、時間と労力を無駄にするとはほかの人の仕事に直接影響を与えかねないということを知るまでは理解できませんでした。奉仕宣教師になる前は、楽しさだけに目が行きがちでしたが、伝道に出ると、働く方法を知らない同僚となることは、楽しくないと分かります。奉仕への備えには、働く方法を学ぶことも含まれるのです。

そのほかに学んだこと

わたしはまた、裏方として働く人々に感謝することを学びました。わたしは、教会の指導者が人からの注目や特別な扱いを期待することなく、どれほど懸命に奉仕しているかを見ました。また、自分よりも大きな障害を抱えて奉仕している人々を見て、だれもが何らかの方法で奉仕できることを学びました。



あるというモーサヤ書第2章17節の言葉は知っていましたが、それが真実である信じられるようになるには時間がかかりました。

伝道宣教師とまったく同じように、奉仕宣教師として奉仕するには利己心を捨てることが必

奉仕するほかの方法

健康上の問題やその他の事情で専任伝道宣教師として奉仕できない人もいます。専任宣教師としての召しを免除されたものの、何かほかの方法で主に奉仕することを望む人は、その可能性について話し合うため、ビショップか支部会長に相談してください。ビショップ/支部長とステーク会長/地方部会長が、地元で行う教会奉仕伝道の機会を見つける手助けをしてくれます。奉仕できる可能性のある場所には以下が含まれます。



- **セミナーまたはインスティテュート事務所**での事務や受付、コンピュータサポート業務。
- 缶詰工場、ビショップの倉、デゼルト産業、雇用センターなどの**福祉施設**。
- **教会所有の農場や牧場**での雑用や事務。
- **集会所**での建物の維持管理の手助け。

教会奉仕伝道の時間外には、死者のためのバプテスマを行って奉仕することもできます。

教会で奉仕することにより、主に対する愛とバプテスマの聖約に対する決意を示すことができます。また、奉仕は地上に主の王国を築く助けとなります。



強さと能力を祝福されたわたしは、一生懸命に奉仕することにより以前より多くのことができるようになったと実感しました。ほかの人を尊ぶと、自分のことをもっと好きになれるということが分かりました。自分に優越感を抱こうとしてほかの人を見下げる癖を付けてしまうのはたやすいことです。しかし、相手を尊ぶ気持ちはお互いの間になくはなりません。イエス・キリストを代表する人は、ほかの人を敬わなくてはならないのです。

それでも、わたしが得た最も大切な教訓は、難しいことに取り組むとき、主が助けてくださるということです。在宅で宣教師になること、雑用のような仕事をする、注目的にな

らないこと、規則に従うこと、「ほんとうの」伝道に出たわけではないと言われること。これらは皆つらいことでした。しかし主は助けてくださいました。幸福になり、自分に自信を持ち、成長し、より善い人となるために必要な事柄を行えるよう、主は助けてくださいます。ひざまずき、頭を垂れて祈るとき、自分自身に正直になってください。そして、いつ、どこへ召されても奉仕ができる備えをしてください。■

注

1. 「宣教師になる」『リアホナ』2005年11月号、45参照

怒りを抑える

怒りを制することにより、
立ち上がって神の息子、娘となれますように。
そうすることで家庭に平安と愛が
満ちるようになります。

ダグラス・E・プリンリー

ブリガム・ヤング大学、教会歴史および教義学教授

わたしは結婚と家族についてのコースを教えています。これまで、自身と両親との関係について学生たちが詳細に述べる論文やレポートなどを読んできました。長年のそうした経験から明らかになってきたのは、抑えの利かなくなった怒りは結婚生活や家族関係を破壊する可能性があるということです。怒りという罪は(ジョセフ・スミス 訳エペソ4:26参照)、人間関係を損なうばかりでなく人格をもむしばむのです。

確かに、義にかなった憤り、そして誤りを正すことは義とされる場合があるものの、わたしは怒りをあらわにしてよいという状況を思いつくことができません。聖文には、規律を失った怒りは常に人を腐敗させ、破壊すると書かれています。これは、結婚生活や家族関係を破壊するためにサタンが使う主要な手法の一つなのです。

主はサタンのことを「争いの父」と呼び、「悪魔は互いに怒って争うように人々の心をあおり立てる」と述べておられます(3ニーファイ11:29)。救い主はニーファイ人に次のように宣言されました。「見よ、互いに怒るように人々の心をあおり立てるのは、わたしの教義ではない。このようなことをやめるようにというのが、わたしの教義である。」(3ニーファイ11:30, 強調付加)

怒りではなく励ましを

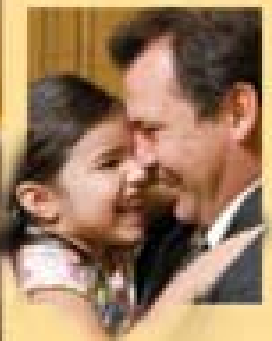
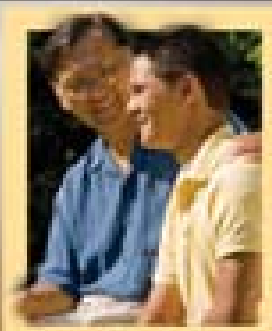
わたしが学生に出す課題の中に、家族環境について書くというものがあります。両親の長所と短所、そして彼らの結婚生活についても具体的に言及するよう指示します。恐らく、学生が共通して採り上げる家族生活の否定的な面の中で最も多いものは父親の気性です。怒るのは父親に限ったことではありませんが、教会の召しを積極的に果たし、家族と一緒に聖文を読み、ほかの人に奉仕しながら、怒りを抑制できない父親がいるのです。

もちろん、両親には子供をしつける必要があるため、子供にとって父親(そして母親)は怒りっぽい人に見えますし、しかられて感謝する子供はほとんどいません。しかし、子供も大学生くらいの年齢になると家庭生活をより客観的に振り返り、良い面と悪い面の両方をきちんと評価するようになります。両親がもっと厳しければよかったと認める人も大勢います。ですが、幼いころに受けた傷を残している人もたくさんいるのです。

ある若い女性は、父親がよく子供たちに怒鳴り散らし、脅かし、ひどくたたいたのを覚えています。昼間に子供の一人が何か悪いことをしたら、父親が仕事から帰って来ると子供全員が隠れたものだそうです。

これと対照的なのが、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の父親が取った方法です。ヒンクレー大管長はこのように話しています。「わたしは怒りに任せて子供に手を上げたことのない父親に永遠に感謝するでしょう。そのような父親には子供に何が期待されているかを知らせ、それを達成するための勇気を与えるすばらしい才能があったのでしょう。」¹

父親が子供に与える永続的な影響について、ヒンクレー大管長はさらにこう言っています。「わたしは、暴力的な父親は暴力的な息子を生み出すと信じています。ほとんどの場合、そのような体罰は良い結果を生むどころか痛手を子供に負わ



父 親は
子供に
計り知れない
影響を及ぼします。
子供を気遣い、教え、
愛をもって
間違いを正し、
より善い人、夫、妻、
父親、母親となるような
影響を及ぼす
父親を持つ息子や娘は
何と祝福されている
ことでしょう。

主と
預言者たちの
言葉によると、
わたしたちは
怒りを抑える方法を
すでに知っているのです。
怒りという問題は、
福音の教義を理解せず、
また応用しないために
生じているのです。

せませす。子供をぶつ必要はありません。必要なのは愛と励ましです。恐れではなく尊敬の念をもって見られる父親が必要なのです。何よりも模範を示す必要があります。』²

かんしゃくを起こすと自制心を失って虐待をする父親について、ヒンクレー大管長はこのように警告しています。「このような悪と野蛮な振る舞いをしている男性は、神の神権にふさわしくありません。そのようなことをしている男性は、主の家に入る特権にふさわしくありません。わたしは、自分の妻や子供たちから愛される資格のない男性がいることを残念に思います。自分の父親を恐れる子供、また自分の夫を恐れる妻がいます。』³

ヒンクレー大管長はそのような父親に悔い改めるよう呼びかけています。「自分自身を抑え、感情をコントロールしてください。あなたを怒らせている原因の多くは、ささいなことのはずです。それに比べて、あなたが自分の怒りと引き換えに払う代価は実に恐ろしいものなのです。主に赦しを請うてください。妻に赦しを請い、子供に謝る必要があります。』⁴

義にかなった模範の力

次に、模範的な振る舞いについて考えてみましょう。父親の模範的な振る舞いを受けて育ったある若者は次のように書いています。

「わたしは父がののしるのを一度たりとも聞いたことはありません。わたしにとってこれは大きな力の源です。なぜなら父は最高の模範だからです。父は、どうすれば末日聖徒として良い生活を送ることができるかを行動で示してくれます。そのような従うべき良い模範があるので、生活の中の小さな決断をするのに何の苦勞も要りません。

自分の行動がわたしの見ている父の行動と同じだと気づくとき、日々イエス・キリストの福音を実践する義にかなった父に対する感謝の気持ちがさらに強くなります。キリストがされるであろう生き方を示してくれた父に、わたしは永遠に恩を受けています。」

父親は子供に計り知れない影響を及ぼします。子供を気遣い、教え、愛をもって間違いを正し、より善い人、夫、妻、父親、母親となるような影響を及ぼす父親を持つ息子や娘は何と祝福されていることでしょう。怒りは、その矛先を向けられた人の心に愛と信頼の気持ちを生じさせません。むしろ心を傷つけ、子供時代に苦々しい記憶を残します。それは次の世代へと引き継がれていくことが非常に多いのです。

怒りを制する

では、怒りの感情に悩む人が自制心を身に付けるにはどうしたらよいのでしょうか。世の中では、ある種の行動修正プログラムを作って怒りの克服を図るという方法がありますが、長い時間がかかるうえに十分な成果を上げているとは言えません。しかし主と預言者たちの言葉によると、わたしたちは怒りを抑える方法をすでに知っているのです。怒りという問題は、福音の教義を理解せず、また応用しないために生じているのです。十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー会長はこう語っています。「真実の教義を理解するならば、態度と行動が変わります。人の行いは、行動について研究するよりも、福音の教義を研究した方が早く改善されるのです。』⁵

悔い改めの教義は特に怒りという罪に有効であり、贖いによる癒しの力をわたしたちの生活にもたらすことができます。十二使徒定員会会員のジェフリー・R・ホランド長老はこのように言いました。「皆さんは変えたいと望むものを何でも変える力を持っています。しかも即座に変えることができます。悔い改めるには何年もかかり、時間がかかるというのは、サタンの欺きです。『改めます』と心から言っているときには、悔い改めているのです。もちろん、そこ



には解決すべき問題もあれば、償いも必要でしょう。残りの人生において悔い改めの状態を保ち、それが本物であることを証明できるような生き方をしていくことでしょう。そうしなければならぬのです。しかし、変化、成長、新生、そして悔い改めは、ちょうどアルマとモーサヤの息子たちがそうであったように、瞬時に訪れるものです。』⁶

怒りを抑えることについて、ヒンクレー大管長はこのように教えています。「怒ったときに口から出てくる辛らつで卑劣な言葉が残す傷は、一体どれほど深い苦痛を人に与えるのでしょうか。それは計り知ることができません。何をさせてもそつのない男性が、何か小さなこと、それもほとんどの場合まったく取るに足りないようなことで平静を失い、抑制が利かなくなって怒りに身を任せることがあります。このような光景を目にするのは実に嘆かわしいことです。どのような結婚生活においても、もちろん様々な意見の相違は付き物です。しかし、だからといってささいなことでもかんしゃくを起こすような気の短さを正当化することはできないのです。……

激しい気性は実に恐ろしく、人の心を傷つけるものです。悲しいことにこのような気性には何の良いところもありません。ただ憎しみと反抗心と苦惱で、害悪を増大させるだけで

す。わたしの話を聞いておられる男性、青少年の皆さんの中に、自分の舌がなかなかコントロールできないという人がいれば、自分の弱点を克服できるように主に嘆願してみてください。また自分が傷つけてしまった人々に謝罪し、自分の舌を制する力を養ってください。』⁷

若者の感性は鋭敏であり、彼らは両親の模範から大きな影響を受けます。怒りを制することにより、立ち上がって神の息子、娘となれますように。そうすることで家庭に平安と愛が満ちるようになります。親としての務めを果たすうえで最も大切なことは、夫婦が良い結婚生活を送り、子供たちに愛と忍耐の模範を示すことです。怒りを制することは、今も、そして子供たちが自分の家庭や家族を築く将来においても祝福をもたらすのです。■

注

1. 「子供たちに救いを」『聖徒の道』1995年1月号, 62
2. 「子供たちに救いを」『聖徒の道』1995年1月号, 62参照
3. 「教会の女性」『聖徒の道』1997年1月号, 77
4. 「教会の女性」『聖徒の道』1997年1月号, 77
5. 「恐れてはならない」『リアホナ』2004年5月号, 79
6. 「苦難の時のために」『聖徒の道』1982年1月号, 11 - 12参照
7. 「わたしたちの神聖な責任」『聖徒の道』1992年1月号, 58参照



父との会話

カーستن・ジョンソン

祖父母の別荘で夕食を終え、5人の弟と外で遊んでいた時のことです。父が外へ出て来て、わたしを呼びました。

自分だけ父に呼ばれ、「面倒なことになるのでは」という不安がよぎりました。わたしはのろのろと歩きながら、つぶやくように言いました。「何、お父さん。」

意外にも、父はこう言いました。「一緒にオートバイで一回りしようか。」きっとわたしはゴルフボールくらいの大きさに目を見開いたことでしょう。わたしはすぐに答えました。「いいわ。もちろんよ、連れてって。」

間もなく、わたしは父の後についてバイクを飛ばし、別荘を取り囲む大きな森を抜け、小山の上まで登りました。わたしは興奮のあまり、危うくスピードを出しすぎるところでした。スピードを落とすよう、1度ならず、父に注意されました。

走りながら、わたしは不思議に思いました。なぜ弟たちではなく、わたしにこのような特別な機会が与えられたのだろうか。山の頂上に着くと、父はこう言いました。「ここは休憩するのにちょうどいい場所だね。」そこでわたしたちはバイクを止めて、眼下に森を見晴らせる岩に腰を下ろしました。二人でしばらくの間、黙って美しい景色を眺めていました。父の方

をちらっと見ると、父は物思いにふけり、何かわたしに話したいことがある様子でした。

父とわたしはそれまでたくさん話したことがあまりありませんでした。きっと、母親以外の人に自分の思いを伝えにくかったのでしょう。すると、父の方から話を切り出しました。「カーステン、お母さんと話したんだがね。おまえはもう、わたしたちの結婚や家族について、少し詳しい事情を話しても、分かる年ごろになったんじゃないかと思ったんだ。」父が使った言葉や話しぶりから察すると、こうやってわたしに話すことを前から計画してきたようでした。

父は優しい声で話し始めました。「お母さんと初めて会ったのは、消防署で消防士の実習をしていた時のことだ。お母さんは事務の仕事をしていた。デートをするようになって気づいたのは、『この人はこれまでにデートをしたほかの若い女性とは違う』ということだった。わたしはのんきな若者だった。別の教会で育ったが、宗教には大して関心はなかった。」

父は続けて言いました。「当時は大した価値観も目標もなかった。そんなことにはまったく関心がなかったんだ。」それから父は前かがみになり、力を込めて、語りました。「カーステン、お母さんはね、義にかなった生活の最高の模範を示してくれた。それまでそんな人に

父と二人きりで
出かけたわたしは
大喜びでした。
それまで
経験したことのない
親子の会話が
できました。



これらのことを話す父は、時には悲しみで目を潤ませ、時にはほほえみで目じりにしわを寄せました。そのときわたしがどれだけ理解できたかは、正確には覚えていませんが、驚きと困惑と愛情の念が交互にわいてきたことは、よく覚えています。

この経験は確かにわたしに影響を与えました。家族というのは実に大きな奇跡であることが分かり、神の計画をより深く理解することができました。また、福音に対する信仰を深めるとともに、福音が人々の生活に及ぼす影響力を再認識しました。あの山の上で、わたしたちは多くのことについて

話し合いましたが、決して忘れられないことが一つあります。父が神と福音、わたしの母と家族に対する強い愛について話してくれたとき、これまでに一度も感じたことのない感謝の念に満たされたのです。父とわたしが福音から様々な方法で影響を受けてきたことも悟りました。

あの日、父とわたしはいっそう固いきずなで結ばれました。わたしは初めて、父が喜怒哀楽を見せる生身の人間であり、ただ規則を作り、遊ぶ許可を与える指揮官ではないと実感しました。父もわたしのことを、前よりたくさん知ってくれたと思います。わたしは父と話したあの特別な時間と、二人がともに感じた愛と思いやりを決して忘れないでしょう。■

親子のコミュニケーション

末日聖徒ファミリーサービス

以下の提案は、親やほかの人々と円滑な意思疎通を行ううえで役立つでしょう。

- **話し合う機会を受け入れる。** 良いコミュニケーションの機会を、まったく予期しないときに訪れることがあります。
- **心から耳を傾ける。** 親が言おうとしている動機や意図を理解するように努めましょう。
- **関心を示す。** 熱心に聞いてもらえると、人は安心して気持ちを表すものです。
- **時折、聞いた内容を要約する。** こうすることにより、親の言うことに心から耳を傾けていることを示せます。
- **質問をする。** 質問をすると、話を正しく理解していることが自分にも相手にも分かります。
- **親も普通の人間だということを心に留める。** 親にも感情があり、身近な存在になりたいと思っています。

親子双方が良いコミュニケーションの技術を実践していけば、お互いに祝福となるような、さらに深いきずなで結ばれることでしょう。

会ったこともなかった。」この言葉を聞いて、わたしは温かい気持ちで胸がいっぱいになりました。

父は、二人の結婚やわたしの誕生、わたしたち家族について、それまで聞いたことのなかった話を、いろいろとしてくれました。父の改宗談や、最初に市民結婚したために、神殿で結び固められるまで1年待たなくてはならなかったことなども話してくれました。また、その1年間に二人が経験した幾つもの予期せぬ事柄についても話してくれました。それまでわたしの頭の中でばらばらだったパズルのピースが、そのとき初めてつながったのです。両親の結婚した日と結び固めの日が一致していなかった理由や、結婚して最初の1年がいちばん大変な年だったという言葉の理由も、やっと納得がいきました。

声に出して祈りましょう

「義人の歌はわたしへの祈りである。」(教義と聖約25：12)



写真/マシュー・ライア、写真はイメージです。アイチア/マッコル、リトケ、シエー、ガリ、ケート・ミラー

質疑応答

「時々、母とうまくいかないことがあります。
言うべきでないことを言い合って、結局、気持ちを傷つけてしまいます。
母を愛せるように祈っていますが、良い気持ちはあまり長く続きません。
母との関係を改善するにはどうしたらよいでしょうか。」

『リアホナ』からの提案

お母さんとの関係を改善したいと思っているのはとても良いことです。お母さんとの良い関係は祝福となるでしょう。しかし、良い関係でいるというのはすべてにおいてお母さんの意見に賛成することではありません。それでもよいのです。よくないのは、異なる意見を伝えるときに互いを傷つけてしまうことです。

お母さんとの関係を改善するための第一歩は、相手を理解しようと努めることです。自分が傷ついているときにそうするのは難しいでしょう。ですので、二人とも落ち着いているときに話してください。まずこの記事と一緒に読み、それから意見の合わない事柄について話し合ってみてもよいでしょう。ただし、一度に一つの事柄にしてください。お母さんの言い分が理解できたら、次に自分の考えや気持ちを伝えてください。そのとき、お母さんを責めてはいけません。

優しく話す、問題が大きくなる前に話し合う、自分が話した後は相手の言うことを聞くなど、二人の間で基本的なルールを作ってもよいでしょう。主はこのように教えておられます。「柔らかい答は憤りをとどめ、激しい言葉は怒りをひきおこす。」(箴言15:1)「一時に一人を語らせて、すべての者が彼の言うことに耳を傾ける

どちらも
落ち着いているときに
話しかけましょう。
お母さんを理解できるよう
努力してみてください。

話しているとき、聖霊が
あなたとお母さんと
ともにおられるように
してください。

お母さんとの関係を
改善するために、
自分の中で
変えられることが
ないかどうか
考えてみてください。

けんそん
謙遜、慈愛、心の変化を
求めて祈ってください。

『リアホナ』からの提案は、
あなたもお母さんも
相手を虐待していないことを
前提としています。
虐待行為のある場合、
ビショップまたは支部会長と
話すようにしてください。

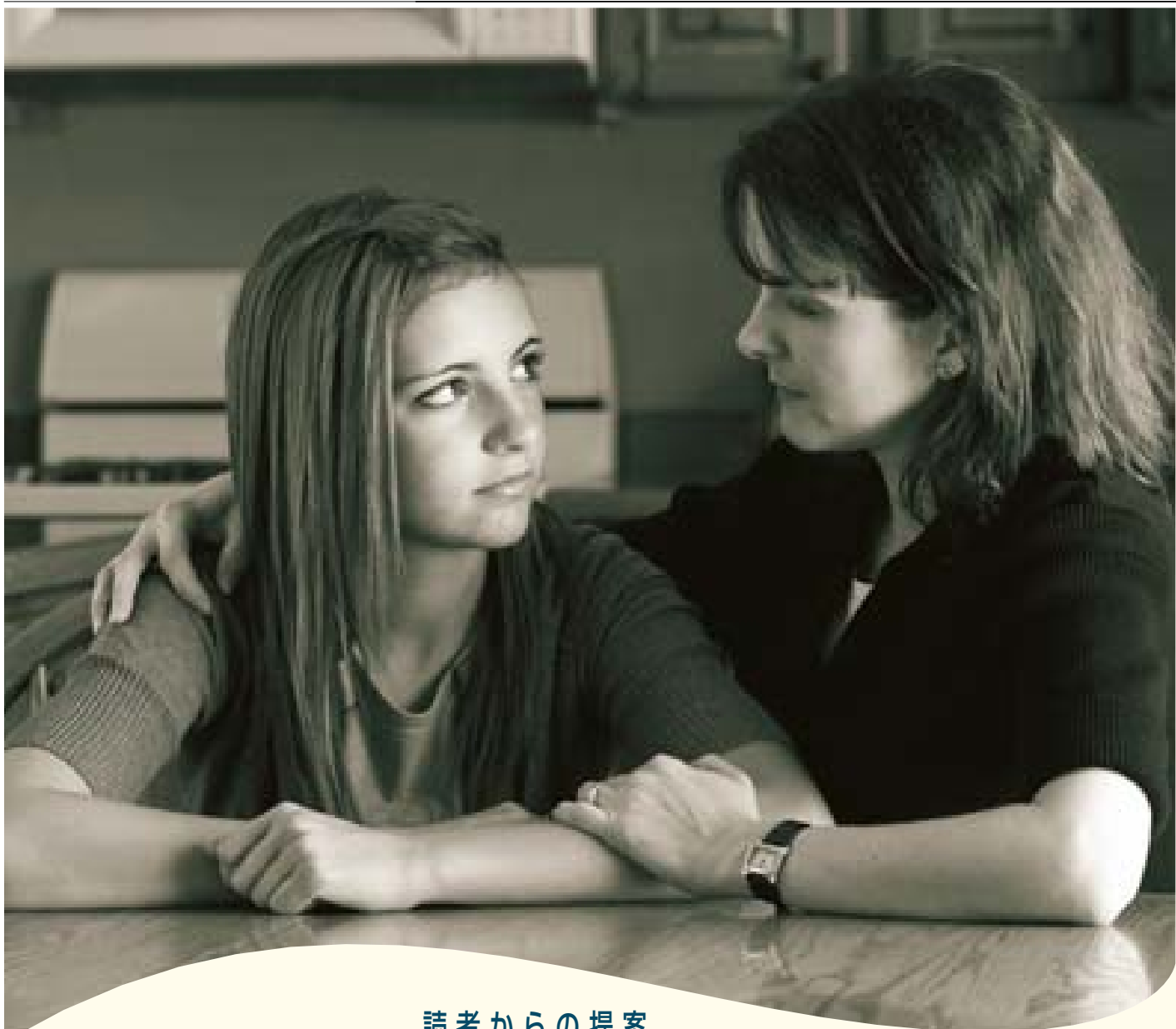
ようにしなさい。」(教義と聖約88:122) 争いが起こると御霊は去ります。御霊を保つには、以上のような事柄が役に立つでしょう。

自分自身を正直に見詰めましょう。お母さんとの関係改善のじゃまになるようなことをしていませんか。家族のルールを守っていますか。もっと心を開く必要はありませんか。もっと相手を敬う必要はないですか。

天の御父にとって家族は大切です。ですから、祈ることによって助けが得られます。お母さんに対する自分の気持ちが変わるように祈りましょう。幸いにも、わたしたちは主の助けによってより善い人になることができます。心の変化が起きると、話すときにお母さんがもっと好きになり、お母さんのことをもっとよく理解できるようになるのです。そうすれば、お母さんもきっと同じように接してくれるでしょう。

お母さんの持つ良い特質に目を向けられるよう祈ることもできます。お母さんを褒めてあげてください。お母さんを愛していると言ってください。あなたのためにしてくれたことに対して感謝してください。

また、けんそん
謙遜になれるように祈ることもできます。謙遜になると、お母さんがほんとうにあなたのことを心にかけていて、お母さんの意見に耳を傾けることが大切であり、お母さんはあなたのためを



読者からの提案

思って言ってくれているのだということが理解しやすくなります。謙遜になると、だれが正しいかよりも、何が正しいかの方が重要だということが分かります。

最後に、主は両親に子供たちを導き教えるように、また子供たちには両親を敬うようにとおっしゃっていることを忘れないでください。特に、お母さんが家族のルールについて話すとき、または何が正しくて何が誤っているかを話すときに、このことを心に留めておいてください。

よく祈り、愛を込めてお母さんを敬おうと努めるなら、やがてお母さんとの関係は改善されるでしょう。



お母さんを愛せるように絶えず祈ってください。そして、天の御父の助けによっていつも前向きで明るい思いと言葉遣いができる

よう祈ってください。愛情を長続きさせたいければ、「キリストの純粋な愛」をはぐくむ必要があります(モロナイフ：47)。同僚とうまくいかないとき、相手に奉仕することが、慈愛をはぐくみ、お互いの関係を改善するのに役立つということが分かりました。

カリフォルニア州アルカディア伝道部
トビー・ポンティアス長老, 21歳



あなたがお母さんを愛していて、あなたにとって大切な存在だということをお母さんが分かるようなことをしてください。家事を手

伝ってあげてください。一緒に楽しい活動に参加するよう誘ってください。謙遜になり、お母さんのために天の御父にいつも祈ってください。いちばん大切なことは「ごめんなさい」と言うことです。
フィリピン、バシラン、ゲナ・G, 19歳

最近、母とのけんかを避けるのに役立つ事柄を学びました。荒々しい言葉は怒りを招き、思いやりのある言葉は問題を解

決するか、少なくとも改善してくれるということですよ。母親はいつも「正しい」ということを学びました。たとえ間違っているとしても、母親は子供のために最善を尽くそうとしているからです。御霊の導きがあるように祈ってください。そうすれば、良い関係を築きやすくなっていくでしょう。

ブラジル、サンパウロ、フェルナンド・V、18歳



ある日、母に口答えをしました。互いに怒鳴り合い、相手を傷つけるようなことを言いました。その後、わたしは聖典を開き愛について読みました。母に謝って赦してもらおうと決めました。外に出ている母は、帰って来るとわたしの枕の上にメモを置きました。お母さんが悪かったと書いてありました。母はただ家事を手伝ってほしかっただけなのです。メッセージを読んだわたしは急いで母のところへ行き、母を抱き締めながらどれほど自分が悪かったか、そしてどれほど母を愛しているかを伝えました。すばらしい瞬間でした。それ以来、聖文の中で自分に示された愛のメッセージを心にとどめ、思いやりをもって話すことにより口論を避けるように努めています。お母さんに愛していると言ってあげてください。そうすれば、彼女もそうしてくれるでしょう。お母さんのすることにいらいらさせられることがあっても自制心を働かせ、彼女の持つ良い面すべてに目を向けてください。お母さんがあなたに何を期待しているかを知るように努めてください。そうすれば、問題は自然に解決するでしょう。

ある日、母に口答えをしました。互いに怒鳴り合い、相手を傷つけるようなことを言いました。その後、わたしは聖典を開き愛について読みました。母に謝って赦してもらおうと決めました。外に出ている母は、帰って来るとわたしの枕の上にメモを置きました。お母さんが悪かったと書いてありました。母はただ家事を手伝ってほしかっただけなのです。メッセージを読んだわたしは急いで母のところへ行き、母を抱き締めながらどれほど自分が悪かったか、そしてどれほど母を愛しているかを伝えました。すばらしい瞬間でした。それ以来、聖文の中で自分に示された愛のメッセージを心にとどめ、思いやりをもって話すことにより口論を避けるように努めています。お母さんに愛していると言ってあげてください。そうすれば、彼女もそうしてくれるでしょう。お母さんのすることにいらいらさせられることがあっても自制心を働かせ、彼女の持つ良い面すべてに目を向けてください。お母さんがあなたに何を期待しているかを知るように努めてください。そうすれば、問題は自然に解決するでしょう。

フランス、ブルゴーニュ、ラケル・L、21歳



母と娘の日を決めて一緒に出かけてみましょう。何でもよいので、お互いの持つ良い特質を発見できるようなことをして、一日をともに過ごしてください。お母さんをどれほど愛しているかを伝えてください。程なくして意見が一致し始め、共通点を見いだすでしょう。

アメリカ合衆国、アイオワ州、リディア・H、14歳

アメリカ合衆国、アイオワ州、リディア・H、14歳

母との会話がいつも口論で終わることが嫌だったので、意思疎通の方法を変えてみることにしました。もうけんかは避けられないという状況になる前に祈るよう努力しました。また、口に出す前に、それは言うていいことなのか、それとも悪いことなのかを考えるようにしました。以来、二人の関



皆さんは
両親にとって
皆さんは
貴い存在です。

皆さんは
父親や母親のことに
少しむとんちゃくしていると、
時々そのことを
考えないかもしれません。

両親の望みと
夢のすべては
皆さんに懸かっています。
彼らは皆さんのために
祈っています。

皆さんのことを
心配しています。
皆さんのことを
考えています。
皆さんを愛しています。

皆さんの両親に
優しくしてください。
愛と尊敬と
思いやりをもって
両親に接してください。

折にふれて両親に
愛していると告げることに
何の差し支えが
あるでしょうか。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長
「靈感を伝える言葉」
「リアホナ」2000年8月号、4

係はずっとよくなっています。

タイワン、タフユウ
台湾、台中、リン・H、17歳



お母さんと一緒に充実した時間を
過ごすようにしてみてください。ど
ちらにとっても楽しいことをして、
互いに触れ合えるようなことをして
ください。あるいは、二人で一緒に

学べるように何か新しいことを始めてみてください。また、相手の立場に立って考えるようにしてください。お母さんはストレスを感じているかもしれません。今日はどんな日だったのか尋ねてください。そして何よりも、絶えず祈るようにしてください。

アメリカ合衆国、ユタ州、カイリー・S、12歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

質問

「ほかの人からアルコールや麻薬を勧められるのではないかと心配しています。人の誘いを断るのが苦手ですし、相手を怒らせたくもありません。きっぱりと断るにはどうしたらよいでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2008年3月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——

Liahona, Questions & Answers 1/08
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メールアドレス——

liahona@ldschurch.org

電子メールまたはお手紙には、以下の情報と署名入りの許可文を必ず明記／同封してください。

氏 名

生年月日

ワード(または支部)

ステーク(または地方部)

意見と写真の掲載を許可します。

署 名

親の署名(18歳未満の場合)

家族は創造主の計画の中心を成すものである



訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や言葉を祈りの気持ちで研究し、選び、教えてください。その教義について証^{あかし}してください。あなたが教える人々に、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。

天の御父の計画において家族が中心を成すのはなぜでしょうか。

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老——「家族に関する教義の源は天の両親にあります。人の最高の願いは、御二方のようになることです。……」

神は時の初めから家族を組織し、永遠のものとされました。アダムとエバはこの世においても永遠にわたっても、結婚の結び固めを受けました。……

これらの鍵^{かぎ}と神権の権能の回復によって、ふさわしいすべての人に永遠の家族という祝福を得る機会が訪れました。……主は次の神聖な聖句の中で、その約束と条件を説明しているらしいです。

『さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。もしある男がわたしの律法であるわたしの言葉によって、また新しくかつ永遠の聖約によって妻をめとり、そしてそれが、わたしからこの力と神権の鍵とを与えられた油注^{みたま}がれた者によって、約束の聖なる御霊により彼らに結び固められ、また彼らに、「あなたがたは第一の復活に出て来るであろう。もしも第一の復活の後なら

ば、次の復活に出て来るであろう。そして、王位、王国、公国、および力、主権、すべての高い所と深い所を受け継ぐであろう」と言われるならば、……小羊の命の書に記されているので、……彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力があるであろう。そして、彼らはそこに置かれる天使たちと神々のそばを通り過ぎ、彼らの頭^{こゝべ}に結び固められたように、すべての事柄について昇栄と栄光を受けるであろう。その栄光とは、とこしえにいつまでも子孫が満ちて続くことである。』（教義と聖約 132:19）……

……家族が神の意図されたとおりに機能するなら、そこに見いだされる関係はこの世でも最も大切なものとなるでしょう。御父の計画では、家族の愛と親しい交わりは永遠に続きます。』（「永遠の家族」『聖徒の道』1997年1月号、72-74）

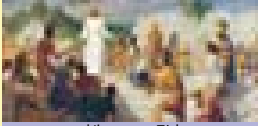
家族が救いの計画の中心を成すという知識があることで、わたしには何ができるでしょうか。

大管長会第二顧問 ヘンリー・B・アイリング管長——「家族は……永遠の命への希望をつなぐ基盤です。わたしたちはまず小さな単位である家族で実行します。それは教会と、わたしたちがこの世で暮らす社会に広まります。家族で実行している事柄は、聖約によって、また忠実であることによって永遠に効力を及ぼします。わたしたちは今、『家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進め』

始めることができます。わたしたちがこれを実行するようわたしは祈っています。また、皆さんが『天の父よ、どのように準備したらよいでしょうか』と尋ねることを願っています。天の御父が皆さんに与えようと願っておられるものを皆さんがどれほど熱望しているかを御父に話してください。そうすれば靈感を受けるでしょう。その導きに従って実行するならば、天の力による助けを受けることをわたしは約束します。』（「家族」『聖徒の道』1998年10月号、23参照）

中央初等協会会長会第一顧問 マーガレット・S・リファース——「今日^{こんにち}の世において、子供たちは献身的な母親と父親だけでなく、わたしたち一人一人の守りと教え、愛を必要としています。……生活のあらゆる面で従順になり、模範を示すことは、子供に福音を教える最高の教訓となります。ですから、福音を学んで、実践してください。』（「あなたがたの幼い子供たちを見なさい」『リアホナ』2006年11月号、74-75）■





自由と永遠の命を選ぶ



七十人
クレグ・A・カードン長老

自由と永遠の命を
選ぶことにより、
わたしたちが知り得る
最高の幸福を
得られることを証します。

わたしは、実家からおよそ160キロ離れた大学で学生生活を始めました。すべての新生生にとって胸の躍る時期でした。初めて家を離れるという学生が多く、彼らは親の目を気にせずに行動できる新しい自由を早く楽しみたいと考えていました。

わたしは大学でバスケットボールチームに所属していて、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることは早々と知れわたりました。最初の学期が始まってまだ数週間というころ、チームメートの一人から、土曜の夜に町から離れた砂漠で開かれる新生生パーティーに誘われました。アルコールが出るかどうかを尋ねると、出ないから大丈夫という返事でした。その返答に首をかしげながらも、わたしは参加することにしました。わたしと同じ標準を持っているという保証つきで、デートの相手も連れて来ると言われました。チームメートは、パーティーには彼の車で行くと言明しました。

土曜の夜になりました。車で砂漠をしばらく走ると、会場が見えてきました。着いてみると、実際はアルコールを飲むことがパーティーのおもな目的だと分かり、わたしは大いに落胆しました。しかも、新生生のほとんどが、合法的に飲酒できる年齢より3つも下だったのです。チームメートと彼のデートの相手だけでなく、わたしのデートの相手も早くお酒が飲みたくてた

まらない様子でした。話が違うと言うと、彼らはわたしに向かって「もっと大人になって世の中を知る」必要があり、それを手伝ってくれると言いました。わたしは、今までアルコールを口にすることがなく、このパーティーでも飲むつもりはないと言いました。すると程なく、チームメートたちはわたしのそばを離れ、ほかの学生たちのところに行ってしまいました。

わたしは帰る交通手段のないまま、酒を飲み大声で笑っている学生たちから離れて独り腰を下ろし、何でこんな所に来てしまったのだろうと考えていました。夜がさらに更けたころ、砂漠の向こうからこちらへ向かって来る、数台の車のライトの列が見えました。車はパーティーの参加者を取り囲むと、合図に合わせたかのように車の上のライトを一斉に点滅させ始めました。そのときになって、それがパトカーであることが分かりました。学生の多くは砂漠の方へ逃げようとしたが、あっという間に取り押さえられてしまいました。わたしは座ったままで、どうすればよいのかも分からずに事の成り行きを見ていました。

警察は学生たちの年齢を知るために身分証明書を確認し始め、法定飲酒年齢に達していない学生には酒気帯び検査を行いました。警察官がわたしのところに来ました。わたしは、その夜も、またそれまでもアルコールを飲んだことは一度もないと言いました。警察官は初め笑いましたが、わたしが信用してほしいときっぱり伝えると、表情を変えました。検査を受け

なくてもよいと言い、チームメートの車を大学まで運転して帰るように指示しました。法定年齢未満で飲酒をしていた学生たちは裁判所に召喚され罰金の支払を命じられました。中には留置場に入れられた学生もいました。

父からのメッセージ

わたしは犯罪記録をつけられることなくその場を去り、日曜日の午前3時ごろに帰宅しました。ワードの神権会は午前7時からでした。6時45分に鳴った目覚ましを止め、ベッドの中で寝返りをうちながら、しばらくその朝の集会を欠席する言い訳を考えていました。しかし、霊的に休まりませんでした。わたしは起きて日曜日の服装に着替え、教会堂まで歩いて行きました。集会には10分ほど遅れてしまいました。

教会堂に入り、わたしは息をのみました。父の後ろ姿が目に入ってきたからです。父は予告なしに訪ねて来たのです。わたしは静かに父の横まで移動し、隣に座りました。父はわたし

にはほえみかけました。そして手をわたしのひざの上にとっかりと乗せ、寄りかかるように顔を近づけて、言葉よりはるかに深い意味のこもったメッセージをささやいたのです。「ここに来ればおまえに会えると思っていたよ。」同時に、天の御父も同じ言葉をわたしの魂にささやかれました。そのときに感じた愛と喜びはうまく表現することができません。

数か月後、わたしは伝道に出ました。そのさらに数か月後、父が突然亡くなったという知らせが届きました。しかし、あの日曜日に父から、そして父を通して受けたメッセージは今でもわたしの心に刻まれています。

自由または束縛を選ぶ自由

この経験は、はるか昔にリーハイが息子たちに伝えた永遠の真理の一例です。「人の子らは堕落から贖^{あがな}われているので、すでにとしえに自由となり、善悪を知るようになってい。彼らは、……

わたしは警察官に、
わその夜も、
またそれまでも
アルコールを飲んだことは
一度もないと言いました。
その警察官は初め
笑いましたが、わたしが
信用してほしいと
きっぱり伝えると、
表情を変えました。



思いのままに行動することができ、強いられることはないの
である。……そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じ
て自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に
応じて束縛と死を選ぶことも自由である。」(2ニーファイ2：
26 - 27)

御父の幸福の計画には選択の自由を働かせることが含ま
れていますが、必然的に、責任を負うことと裁きもその計画
に含まれることとなります。チームメートやパーティーに来てい
た学生たちは自由に行動することができましたが、その行動
の結果を選ぶことはできませんでした。中には留置場で一
夜を過ごした学生もいました。また、欲求のままに行動する
ような生活を始め、今日までそれに束縛され続けている人も
います。

誤った選びをしながら自由を求めた結果、自分自身に束縛
をもたらすというのは大きな皮肉です。カインは自分の兄弟
を殺して自由になったと思いましたが、結局
は自分が行ったことのためにのろわれ、
苦しみを受けてきました(モーセ5：32 - 39
参照)。ペテロは悪い影響力を持つ
人々のことを、自由を与えると約
束しながら実際は滅亡へ導こ
うとする「水のない井戸」
と呼んでいます。

「おおよそ、人は征服者の奴隷となるものである。」(2ペテロ
2：17, 19) しかしペテロは、自由という真の道についても明
らかにしました。「主は、信心深い者を試練の中から救い出
[す]……方法を、御存じなのである。」(欽定訳2ペテロ2：
9 - 10から和訳) なぜなら、人は「主また救主なるイエス・キ
リストを知ることにより、この世の汚れから」逃れることがで
きるからです(2ペテロ2：20)。

レーマン人サムエルは次のことを覚えておくように勧めまし
た。「[わたしたちは]随意に行動することを許されている。
……神は[わたしたち]に知識を与えて、[わたしたち]を自由
にくださったからである。……また、[わたしたち]が生でも死でも選べるようにくださった。」(ヒラマン14：30 - 31)

パーティーの内容についてチームメートがほんとうのことを
言わなかったとき、わたしは内心不安になりました。それで
もわたしはその気持ちに従いませんでした。御霊は確かに
警告しようとしていたのだと分かったとき、わたしはチーム
メートよりも自分自身にがっかりしました。しかしパーティーの
参加者から離れていることによって、霊的な慰め
を得ました。そして後には、警察が帰宅を許可
してくれたことで、社会的にも不利益を受け
ずに済みました。

しかし、自由という最高の祝福は、あの日
曜日の朝、寮の部屋で、自分の行くべき所
に行くという選びをしたときにやって来たのです。
そのときはまだ、あのようなすばらしことが起
こる、つまり父に会い、今でも心に刻まれている
あの言葉を聞くことができるとは知りませ
んでした。御霊の働きによって得るこのよ
うな経験は、永遠の命という祝福に伴
う自由がどのようなものかをあら
かじめ示してくれます。

自由と永遠の命を選ぶこ
とにより、わたしたちが知り
得る最高の幸福を得られ
ることを証します。■



人生を変えてくれた 指導者としての奉仕

指導者として
仕えること、
あるいは
指導者から
奉仕を受けること
によって
得た祝福を
世界中の
末日聖徒が
紹介して
くれました。

一人のための指導者

南アフリカのケープタウンにある教会に集っていたわたしは、12歳で若い男性になりました。そのとき、ワードの若い男性で活発に集っているのはわたし一人でした。それでも靈感を受けたビショップは、若い男性の会長会を召してくれました。

召された会長は「たった一人しか若い男性がいないのに何ができるというのだろう。たった一人のために活動なんて計画できない」と思うこともできたでしょう。しかし会長はそう思う代わりに、最善を尽くし、召しを尊んで大いなるものとなりました。会長会はハイキング、キャンプ、スカウト活動、火曜の夜のミュージカル、日曜日のレッスン、サンドボード、海辺での活動を計画してくれました。しばらくすると、ほかの若い男性も集会に来るようになり、出席者は2人、3人、そして4人と増えていきました。

彼らが召しを忠実に果たし、たった一人の若い男性、つまりわたしのために尽力してくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。彼らがあきらめなかったおかげで、わたしはさらに良い人間になりました。それはワードの若い男性プログラムに参加したほかの兄弟たちも同じです。

南アフリカ、グレッグ・バーゴイン

一歩ずつ、指導者への道を歩みました

バプテスマと確認を受けて数週間後、わたしはメキシコのバリエ・ドラドワードで初等協会の書記に召されました。

福音に添った生活を始めて間もなかったのに驚きましたが、救い主を愛していましたし、奉仕したいと思いました。

もっと適任の人がほかに大勢いますとビショップに言ったりもしました。しかし奉仕しているうちに、この召しが靈感によって与えられたことが分かるようになりました。初等協会の子供たちとともに活動することで、福音の原則、美しい賛美歌、そして信仰箇条を学んだのです。子供たちも大好きになりました。子供たちを通して彼らの親とも知り合いになりました。





何よりも、
初等協会の
会長や
顧問の姉妹たちと
働くことを通して
最も多くのことを
学びました。
彼女たちは
忍耐強くわたしを助け、
失敗を赦してくれました。
少しずつ、わたしは
召しを果たす方法を
学んでいきました。

しかし何よりも、初等協会の会長や顧問の姉妹たちと働くことを通して最も多くのことを学びました。彼女たちは忍耐強くわたしを助け、失敗を赦してくれました。少しずつ、わたしは召しを果たす方法を学んでいきました。わたしたちは3年にわたって初等協会とともに召しを果たし、親友になりました。

解任された後、わたしたちは扶助協会で奉仕する召しを受けました。互いに愛を示し合いながら、わたしたちはさらに2年間、一つとなって奉仕しました。彼女たちから、責任を委任することはほかの人たちが指導者になるための訓練になるということ学びました。食糧貯蔵を分け合い、同じ目的のために断食し、ともに神殿に参入しました。彼女たちは、わたしが忠実で、献身的で、愛ある指導者となるように助けてくれました。わたしは自分が学んだことを伝えていく義務があると感じています。あの姉妹たちに訓練されていたときに経験したようなことを、ほかの姉妹たちにも経験してもらいたいと思っています。

メキシコ、ラウラ・ビーガ・ダルバ

とにかく準備ができていません

バプテスマと確認を受けて3週間後、アヤラビショップから面接を受けたわたしは、会員になってからの生活について尋ねられました。わたしはこう答えました。「とても順調です。もうモルモン書を2回読みました。もっと学び、読んだ事柄を実践できるように『福音の原則』も読んでいます。」

するとビショップはこう言いました。「天の御父はあなたを心にかけておられ、あなたを日曜学校の教師に召されました。14歳から17歳までの青少年のクラスを教えてくださいませんか。」

わたしはすぐに、数えるほどしか自分と年の変わらないクラスの青少年の中には、教会で育ち、わたしよりも福音をよく知っている子がいると思いました。

わたしはビショップに言いました。「そんな割り当てを受ける準備はできていません。」

ビショップは慎重に、言葉を選びながら答えました。「ロベルト、あなたにこの召しを与えておられるのは天の御父です。御父はあなたの能力と忠実さを御存じです。」

「とにかく準備ができていません。もっと時間が必要です。」わたしは食い下がりました。

ビショップはわたしの目をまっすぐ見詰めて、穏やかに、しかし力強い口調でこう言いました。「もしこの召しを受け入れられないと思うなら、わたしに言うべきではありません。ひざまずいて天の御父に伝えてください。御父はあなたに答えてくださいます。それからなら、わたしはあなたの決断を受け入れましょう。」

その後、長い沈黙が続きました。そして、父親が息子を見るようなまなざし^{おくびょう}でビショップはこう言いました。「ロベルト、この教会は臆病な人々の教会ではありません。勇気ある人々の教会なのです。」

その瞬間、わたしは悔いる気持ちになりました。そして目に涙をため、声を震わせながら言いました。「ビショップ、最初のレッスンはいつですか。」

ビショップはわたしを抱き締め、優しく背中をたたいてこう言いました。「今週、一緒に準備をしましょう。」

天の御父がこのような特別な指導者、すなわち言葉だけでなく模範によって教えてくれるビショップを与えてくださったことを知り、わたしは喜びでいっぱいになりました。

伝道中やそのほかの召しで奉仕していたとき、この経験をよく思い出しました。今でも忘れることはありません。自分が主の教会の会員であることを天の御父に感謝しています。

ペルー、ロベルト・カルロス・パチエコ・プレーテル

熱心に仕える執事たち

グアテマラにいる義理の姉妹の一人が、ストレスから体調を崩してしまいました。妻とわたしは彼女のために祈りましたが、それ以外に何ができるか分かりませんでした。

そんなとき、故郷のグアテマラへ出張する機会があり、義理の家族を訪ねることができました。そこで指導者であることの意味についてすばらしい教訓を学びました。

テラスで義理の父と話していると、父のワードに集う12歳の男の子が、そばを歩いてあいさつして行きました。少年が見えなくなると、義理の父がこう言いました。「この間、

あの子と、同じ年の二人の少年にとっても驚かされたんだ。ワイシャツと

ネクタイ姿で3人そろって我が

家に来てね、わたしにあいさ

つすると、驚いたことに娘に

会いたって居間に向

かって行くんだよ。そして

娘に向かって、体調を崩

したことを聞いたのでお

見舞いに来たと言うん

だ。執事だから祝福は授

けられないが、祈ることは

できる、そうすればイエ

ス・キリストが祝福してく

ださるだろうと言っていたよ。

3人の若い男性はひざま

ずき、すばらしい祈りをさ

げ、娘を祝福してくださるよ

う。天の御父にお願いしてく

れた。それから立ち上がって愛

している



ことを娘に告げ、帰って行ったんだ。

ほんとうに、あの男の子たちのすばらしい模範には感心したよ。」

翌日、聖餐会せいさんに出席すると、聖餐を配るために身なりをきちんと整えた3人の若い男性がいました。わたしは彼らに称賛と尊敬の念を抱きました。集会が終わった後、わたしは握手をしに行きました。彼らの小さな手には、疲れて意気消沈した人を引き上げる力が備わっていました。奉仕、愛、信仰の模範を示してくれたあの若い男性たちに神の祝福があるよう願っています。

ユタ州、オスカー・アバド・グティエレス

母と面接したいのですか？

教会の会員になって以来、わたしは戒めを守りたいと心から望んできました。しかし什分じゅうぶんの一を納めることは難しいことでした。末日聖徒でない母がそうさせてくれなかったからです。

給料をもらうと、わたしはタンスの引き出しに什分の一の分をしまっておきました。しかし、主にお返しする日がやってくると、もうそこにはないのです。お金を見なかったかと母に尋ねると、主はそのお金を必要とされないの使ってしまったと答えるのでした。わたしはあえて口答えしませんでした。この問題を解決する方法はほかにあるはずだと思ったからです。

什分の一を納めることができなかったため、わたしは長い間悲しい日々を送っていました。什分の一面接でビショップ室へ行くと、什分の一は完納ですかと聞かれました。わたしは目に涙を浮かべて、母が什分の一のお金を使ってしまうので、完納ではありませんと告げました。ビショップは、主はわ

たしの心の望みを御存じですと言って慰めてくれました。そして、水曜日に面接をしたいので、母を教会に連れて来られないかと尋ねました。わたしは承諾しました。

その週の間、わたしはこう自問していました。「教会員でない母を、どうやってビショップとの面接に連れて行けばいいのかしら。来てくれるはずがないわ!」

水曜日になってもまだ母に何も話していませんでした。そこで、一緒に集会所に来てくれないかとだけ尋ねました。理由は独りで行きたくないからだと言いました。幸い、母は行くと言ってくれました。

フェイトーサビショップは母を温かく迎え、ビショップ室へと招き入れました。母が中にいる間、わたしは不安で仕方がありませんでした。ようやくビショップ室から出て来ると、——何と母は笑顔でした。

帰宅する途中、母はわたしの方を見て、こう言いました。「これからは毎月什分の一を納めるのよ。」胸が躍りました! 主は神聖な戒めを守りたいというわたしの望みを母が理解できるよう、道を備えてくださっていたのです。

その後、母も教会に加わりました。母は自分で什分の一を納めていて、わたしにもきちんと納めているかと聞いてくるようになりました。わたしたちは、この戒めを守ることによって信じられないほどの祝福を受けてきました。靈感を受けた指導者が主への犠牲、献身、忠実さについて母に語ってくれたおかげです。

ブラジル、エバニウダ・ゴメス・ド・ナスキメント

彼と話しなさい

1998年、ワードの若い男性会長をしていたとき、ステーキの青少年キャンプに参加しました。ゲームの後で一休みしてい

主の手に使われる者



「指導者は何かを起こさせ、人々の生活に何らかの影響をもたらす人です。そこには何らかの動きと変化が伴わなければなりません。そして自分の下で働く人々が失敗しないように見守るのです。しかもそれを主の方法で行わなければなりません。すなわち全能者の助けを借

りて人々の生活を変える主の器にならなければなりません。また自分が今どこにいて、目的地はどこか、またどのようにしてそこにたどり着くかその方法を知っておく必要があります。」

大管長会第二顧問 ジェームズ・E・ファウスト管長（1920-2007年）
「これらの者をわが統治者となさん」『聖徒の道』1981年4月号、65-66



ると、知らない若い男性を見かけました。キャンプ場から離れた小さな丘の上に独りで腰を下ろし、楽しそうな表情はしていませんでした。わたしはそばに行って話しかけるべきだと感じました。

自己紹介をしてから、その子の名前を尋ねました。何を話したかをすべて思い出すことはできませんが、自分が涙を流したのは確かです。その特別な会話は、次の活動を知らせる声がかかるまで続きました。そのとき以降、その男の子を見かけることはほとんどなく、再び言葉を交わすことはできませんでした。

2005年8月、ステーキセンターで集会がありました。するとあのときの若い男性がわたしのところへ来て、次のような手紙をくれました。

1998年ごろ、サンマーティン公園であなたと話したことを今思い出していました。そのとき、わたしは独りで座っていて、少し悲しい気分でした。あなたはわたしのところへ来て、話さなければと感じたと言ってくれました。あなたは……教会にとどまってイエス・キリストに従うか、それとも行くのをやめて、教会に活発に集うことで得られる祝福を受け取らないか、

そのどちらかを選ぶ時が来たと言いました。今でも頭から離れないのは、もしわたしが戒めを守ることや教会に集うことをやめるなら、わたしの家族も皆同じようになってしまおうが、もし福音に従って成長を続け、正しいことを行うなら、家族も教会に来るだろうという言葉でした。

……心の中に家族を助けたいという強い望みがわいてきました。……そしてあなたと話した日から、わたしは主に忠実でいようと決心し、7年たった今も主に忠実に生きています。家族も福音に確固として立ち、主に忠実な生活を送っています。……率直に、そして誠実に話してくださいましたことにとっても感謝しています。あなたとの会話はわたしを大きく変えてくれたのです。

あの若い男性は今、伝道を終え神殿で結婚しています。指導者として奉仕する機会を与えてくださった主に感謝しています。人の痛みを理解するように努めるため、その人の立場になって考えることの大切さを知ることができたことに感謝しています。■

アルゼンチン、アレハンドロ・ウンベルト・ビリャリアル

母のせいではじめに
 自分の一を
 納めることが
 できないと伝えると、
 ビショップは
 母を教会に
 連れて来られないか
 と尋ねました。
 面接をする
 と言うのです。



あ か し

証を得る

七十人
ポール・K・シブラウスキー長老

わたしは素晴らしい家族の中で育ちました。しかし家族は教会から足が遠のいていました。家庭で福音が真実であるという証を聞くことはありませんでした。ユタ州ソルトレーク・シティーという、非常に末日聖徒の多い環境で育ちましたが、典型的な末日聖徒の家族の中で育ったわけではありませんでした。我が家では家庭の夕べを開いたり、家族で祈るために集まったりすることはありませんでした。友人たちが親しんでいた教会の習慣の多くは、わたしにとってあまりなじみのないものでした。

このような家庭環境で育ったわたしが、セミナーの大きな集会で立って証することは、まずだれにも考えられなかったと思います。わたしは多少内気な15歳の少年でしたので、300人ものセミナーの生徒の前に置かれたマイクの所に立ったときには、自分でもとても驚きました。しかし、心に深く感じていた確信のおかげで不安はありませんでした。あのセミナーの集会で立って証を述べるように御霊にどれほど強く促されたか、今でも鮮明に覚えています。

自分が話した言葉を正確には覚えていませんが、あのとき感じた、心の中の燃える思いは決して忘れられません。教会が真実であるという確かな証を受けたのです。そして実際に

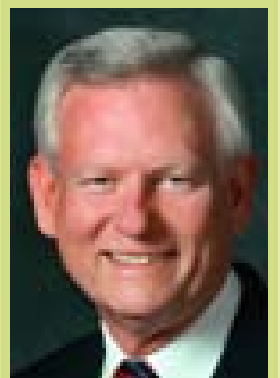
教会の真実性について証を述べたときに自分に降った御霊をはっきりと覚えています。

わたしは知りました

それまでにも、わたしは教会が真実であると信じていました。教会が好きでした。善いものであると感じていたので、集会に出席していました。しかし、わたしの人生を変えたあの瞬間に、教会が真実であることを知りました。わたしにはそれを否定することはできませんでした。だれもその証をわたしから取り去ることはできませんでした。

あのセミナーの日以来、何千回も証を述べてきました。証を述べた別の機会を思い出しても、10代のあの契機となった出来事ほどわたしに劇的な変化をもたらしたり、将来を形作るうえで大きな影響を及ぼしたりしたものはありません。あの出来事がこれほど印象に残っている理由の一つは、最初の示現を受けたときの預言者ジョセフ・スミスと当時のわたしが同じくらいの年齢だったからでしょう。そのときジョセフは、天の御父と御子イエス・キリストにまみえて、自らが地上にまことの教会を回復する仲立ちとなると知らされたのです。

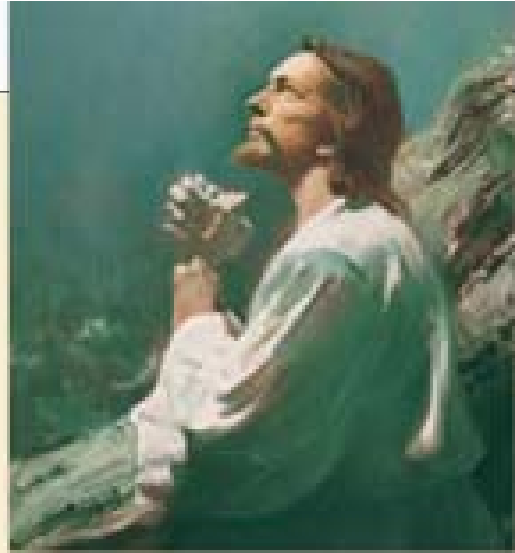
自分の証を述べて確かな確信を得たことは、多くの意味で人生の転機となりました。主が人に指示をお与えになるとき、それはその人にとって最高の教えとなります。この証があったおかげで、わたしは奉仕をし、より良い生徒となり、社会で役立つ技術や技能をもっと身に



あかし
証を述べた
様々な経験を
思い出すことが
できますが、
恥ずかしがり屋の
10代の少年だったころ、
300人の
クラスメートの前に
立ったときほど
鮮明に覚えている
経験はありません。

証を築き上げ、
イエス・キリストが
自分の救い主、
自分の贖い主であられる
という信仰を
持つことが肝要です。
そして、主が
その完全な愛のゆえに
皆さんを
贖ってくださったことを
理解することが
大切です。

付けたいと思うようになりました。また、聖文をもっと学びたいという望みが非常に強くなりました。人生の目的がいっそう明確になりました。そして、ふさわしい生活をするなら、福音を宣べ伝える業に召される日が来ることを確信するようになりました。



また、神がわたしを御存じであることも知りました。このことはわたしを驚嘆させ、変えたとても重要な事柄の一つです。わたしは神の息子なのです。だれでも、ひとたび自分が何者であるかを悟ると、より良い人になりたいと望むようになります。そして、ある力、すなわち天の御父が与えてくださる靈感によってのみ得られる力がわいてくるのです。

この経験を振り返ると、天の御父はもう少し容易にわたしに働きかけることができるように、ある特質や技術を身に付ける機会をお与えになりたかったのだと思います。また、御父は、わたしの家庭ではそれほど勧められていなかった伝道に出ることについても考え始めるようにされたのだと思います。10代の初め、わたしは伝道についてあまり考えていませんでした。しかし、証を述べたあの経験を通して、伝道に出たいという自分の気持ちに初めて気づきました。その望みはほかの多くの経験によってさらに強くなりましたが、伝道に出たがっている自分に気づいたのはそれが初めてでした。わたしが今知っていることを天の御父の子供たちに伝えるために、専任宣教師として奉仕

すること、それが天の御父の御心^{みこころ}である、と確信したのです。

心を開く

証を得ることは、救い主が御姿^{みすがた}を現されたときにニーファイ人が経験したことに似ています。最初、彼らは耳でしか聞いていなかったため、神の声が理解できませんでした。しかし彼らが心を開いたときに初めて神の声を理解しました。

「その声は三度まで聞こえ、彼らはこの度は耳を開いてそれを聞き、目をその声のする方へ向けて、その声が発せられる天を見詰めていた。

すると見よ、三度目には、彼らは自分たちに聞こえたその声の告げる意味が分かった。」(3ニーファイ 11:5-6)

天の御父の靈感に心を開くことは人生に不可欠の要素です。皆さんには天の御父の靈感が必要なのです。

皆さんは独特の試練に直面します。これらの試練に打ち勝つ方法は、聖霊の影響力が皆さんの心に浸透できるようにすることです。聖霊に導いてもらえるようにしましょう。天の御父からの力は、霊と心に直接与えられます。そして人は、主から力を頂いたときに初めて前進できるのです。主はこの力を、個々人の証のうちに授けてくださいます。

10代の時期を楽しむ

証を強めることは10代の時期を楽しく過ごすうえで有益です。10代は人生の中で最も楽しい時期となり得ます。だからといって、伝道に出ることや、神殿で結婚すること、あるいは将来のすばらしい経験は大切でなくなるわけではありません。しかし、10代の青少年として人生を楽しむようにお勧めします。では、どのように楽しめばよいのでしょうか。主の戒めをすべて守ることによってです。戒めは好みで選べるものではありません。一つ一つの戒めは、賢明な目的のために、皆さんを守るために与えられています。

『若人の強さのために』に記された大管長会からのメッセージの一部にこのようにあります。

「天の御父は皆さんが喜びに満ちた生涯を送り、みもとに戻って来ることを望んでいらっしゃいます。ここで下す決断は今後の人生に起きる多くの出来事や永遠の行く末を決めていくでしょう。

主は皆さんを愛していらっしゃるので、戒めと預言者たちの言葉を与えられ、旅の道しるべとされました。」¹



わたしたちの預言者、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べています。「幸福な民となりましょう。主の計画は幸福の計画です。」² 預言者に従いましょう。幸福な生活を送りましょう。皆さんの人生のこの時期は胸の高鳴る時期であり、それだけで楽しいはずでありません。教会での活動は、皆さんが青少年の時期を真に楽しむ助けとなるでしょう。

心の中で感じている気持ちに従う勇気を持ちましょう。その気持ちをしっかりと持ち、大きく育てましょう。証を築き上げ、イエス・キリストが自分の救い主、自分の贖い主^{あがな}であられるという信仰を持つこと

が肝要です。そして、主がその完全な愛のゆえに皆さんを贖ってくださったことを理解することが大切です。

そのような確信があれば、皆さんはイエス・キリストを信じる信仰と悔い改めの力を組み合わせるすばらしい特権を得て、自分の交わした聖約が効力を持つようにすることができます。そうすれば、神会の御一方である聖霊から指示と導きを受けられます。これはすばらしい賜物^{たまもの}です。この偉大な賜物は、主イエス・キリストを信じる信仰を持ち、悔い改めの実を味わう結果としてもたらされます。

10代のころ、わたしはもう一つの賜物を受けました。すなわち、増し加わっていく、生きた証、すなわちイエス・キリストの福音に関する証を受けたのです。わたしがその証を養い育てると、証はさらに強くなり続けました。わたしは主の規範、つまりわたしを天の御父のもとへ導くための計画を理解し始めました。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」(教義と聖約 50:24)

神がわたしたちの御父であられ、その御子イエス・キリストが全人類の救い主であられることを厳粛に証します。皆さんも確信を得ることができます。皆さんも証を得ることができます。わたしがそうであったように、皆さんも10代の今、証を得られます。将来まで待つ必要はないのです。■

注

1. 『若人の強さのために』(2001年)2
2. 『より善い人になりましょう』[リアホナ]2002年11月号, 100

バランスの取れた生活

を送る



ロバート・F・オートン長老

(七十人の一員として2001-2007年まで奉仕)

わたしたちには
たくさんの
課題があります。
しかし、
高等教育を求めること、
結婚して家族を持つこと、
教会で奉仕することの、
どれをも
あきらめる必要は
ありません。

ほとんどの人は、いつまでも幸せが続くような人生を望んでいるのではないのでしょうか。それは永遠の命に通じる道を進む計画を立てることで達成されるとわたしは信じています。御霊のささやきに心を傾け、適切なバランスを取るなら、その道をより速く、容易に進むことができるでしょう。

ここで言うバランスとは、霊的、知的、肉体的、社会的、経済的な事柄に関するバランスのことです。バランスとは心と感情の安定した状態と定義されます。つまり、調和と釣り合いをもたらすことなのです。

バランスを取るという課題

皆さんも知っているように、日々の生活で難題に対処していると、わたしたちの望むバランスや調和が乱れてしまうことがあります。人生においてバランスを取り、そのバランスを維持

しようとするとき、多くの人はその難しさに圧倒されます。十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老の話の基にして説明しましょう。¹

ある独身の学生が言いました。「結婚し、家族を築くことを必要以上に引き延ばすべきではないということは、聖文や現在の教会指導者の言葉から分かります。しかしわたしは26歳です。学業を終えておらず、仕事にも就いていないので、家族を養うことができません。少なくとも今は結婚しなくてもよいのでしょうか。」

またある人はこう言います。「わたしは女性で、プロポーズしてくれる人がいません。どうすれば結婚しなさいという戒めを守ることができるのでしょうか。」

若い母親が言いました。「学業を終えるのと、子供を育てるので手いっぱいです。ほかのことを考える時間がほとんどありません。世間や教会はわたしに求めすぎだと思うことがありま

写真/ローラン・ルクイ、その他の説明のあるものを除く。写真はイメージです





す。どんなに頑張っても皆の期待にこたえることは絶対にできません。自分に自信を持つとしても、罪悪感、絶望感、落胆にじゃまされてしまいます。日の栄えに入るために必要なことは教えられていますが、そのすべてを実践できていないからです。」

別の独身の学生が言いました。「学費を稼ぐために働かなければなりません。宿題と教会での奉仕に割ける時間が足りません。バランスの取れた生活なんてどうしたらできるのでしょうか。」

ほかに、次のように言う人がたくさんいます。「運動が大切なことは身にしみて分かっています。でも時間がないのです。」

ある姉妹は言います。「今の世の中、妻が外で働かなければ夫婦はどうやって家族を養うことができるのでしょうか。妻が働かなければ、生活費を賄うことなんてとてもできません。」

ある若い父親もこう言っています。「新しい事業を始めたので、時間は全部それにとられてしまいます。妻や子供、教会の召しをないがしろにしていることは自覚しています。でも今年さえ乗り切れれば十分な収入が入ってきます。そうすれば状況も落ち着くでしょう。」

いいえ皆さん、それは空想なのです。生活は楽になりません。今より輪をかけて厄介になるでしょう。明日になればもっと時間ができて、責任も軽くなるなどと夢を見てはなりません。将来しなければならぬことを現在の状況下で実際に行うことにより、今後やって来る事態に取り組む備えをしましょう。

高等教育を受けること、または自分の能力を伸ばしたり高めたりすることはやめるべきなのでしょうか。結婚して家族を持つ夢はあきらめるべきなのでしょうか。自立し家族を養う備えはもうしない方がよいのでしょうか。教会の奉仕のことは忘れるべきなのでしょうか。

どの問いかけに対しても、答えはもちろん「いいえ」です。今ここで挙げたすべての悩みに対し、ここで具体的に踏み込むことは不可能ですが、皆さんに考えてほしいアイデアを幾つか紹介します。

バランスの必要性

預言者ジョセフ・スミスはこのように教えました。「『モルモニズム』の中の特に根源的な原則の一つは、ある事柄が真実

であるならば、たとえその出所が何であっても、それを受け入れるということです。』² ジョセフ・スミスはまた次のことを明らかにしました。「神の栄光は英知である。」(教義と聖約93:36)「わたしたちがこの世において得る英知の一切は、復活の時にわたしたちとともによみがえる。」(教義と聖約130:18)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう言っています。「皆さんには、ぜひバランスの取れた生活をしてほしいと願っています。福音のある一点にだけ関心を持ち、時間を注ぎ込む、いわゆる『趣味の福音』に執着しないでください。満足のいく食事は、いつも複数の料理で構成されているものです。皆さんの選んだ……専門分野で秀でることは良いことですが、それを唯一の関心事にしてしまうことのないように警告します。……

……執着に気をつけましょう。関心事を狭めないよう気をつけてください。自分が職業とする分野で能力を伸ばしながら、ほかのたくさんの良い分野に興味の目を向けるようにしましょう。』³

ヒンクレー大管長はまた、わたしたちが責任を持たなければならない4つの事柄について教えています。それは家族に対して、雇用主に対して、主に対して、また自分自身めいそうに対する責任です。また、「幾らか時間をかけ、しばらく瞑想すること、そして軽い運動をすること」を勧めています。⁴

飛行機に乗っていて気づいたことがあります。空港から離陸を始めるときに客室乗務員が立っているいろいろな注意をしてくれますが、その中にこのようなものがあります。「客室内の気圧が低くなると、頭上から酸素マスクが降りてまいります。お子様や障害をお持ちの方のお世話をしている場合、ほかの方に酸素マスクを着ける前に、必ず御自分のマスクをお着けください。」客室乗務員はなぜそのようなことを言うのでしょうか。もちろん、それは自分が意識を失えば、人を助けられないからです。この原則は、人への奉仕、また教会と仕事での奉仕にも当てはまります。自分自身を強めなければ、決して人を強めることはできないのです。

大管長会第二顧問として奉仕したジェームズ・E・ファウスト管長(1920-2007年)はこう述べています。「義にかなったバランスを取る人々にとっては、『聖なる御霊の勧め』に従うことはごくたやすいことです(モーサヤ3:19)。そうするとき、生まれながらの人の性質を離れ[ることができるのです]……

ほとんどの場合、バランスを取るとは、何が変更可能かを知り、



それらについて適切な見通しを持つこと、また変更できない事柄についても知ることです。』⁵

わたし自身の3つの経験

わたしはユタ州のパンゲイッチという、人口1,500人の小さな町で育ちました。田舎で育ったわたしは、いわば小さな池の大きな魚でした。高校を卒業すると、奨学金を得てブリガム・ヤング大学に入学しました。しかし、大学に入るとすぐに、自分が巨大な池の小さな魚であることが分かりました。わたしは落ち込みました。「ここから逃げ出したい」と思いました。週末には家に帰るようになり、キャンパスにある教会でなく、実家のそばの教会に行きました。思うような成績を取ることもできず、人と知り合う努力もしませんでした。1年生の終わりには「もう大学には戻りたくない。自分には合わない」とこぼすようになっていました。

夏になって実家に帰りました。8月の半ばになると学校に戻りたくなくなり、そうすることにしました。今回はすぐに、学校のいろいろなクラブや奉仕の組織に参加しました。寮に移りました。週末も家に戻らずキャンパスにある教会に行くようになりました。成績も上がりました。キャンパスの生活は良いものだと分かり、そこにいて幸せだと実感するようになりました。

後に法科大学院に進みました。学部生のと

きは違う専攻だったため最初の年は苦勞しました。成績も再び下降気味になってしまいました。2年目になると、学業と平行して法律事務所でアルバイトをしました。成績も良くなり、2年目の終わりには妻のジョイと結婚しました。新しい責任が加わったにもかかわらず、すべてがうまくいきました。成績はそれまででいちばん良くなりました。

最後に伝えたい経験は、司法試験に合格したときのことです。ある老練の法廷弁護士が皮肉っぽくわたしにこう言いました。「ボブ、君は末日聖徒の活発な教会員であるかぎり、優秀で仕事のできる法廷弁護士にはなれないよ。」わたしは、仕事ぶりも優秀で、なおかつ教会でも活発な弁護士を知っていました。彼らのことを思い浮かべながら、自分も教会に活発であることを決心しました。この決心が法廷弁護士としてのわたしの成功を妨げたことはありません。むしろ、成功を後押ししてくれました。生活の中でバランスを取っていたからです。わたしは主から求められたことを行おうと努力しました。すると主は、それまで以上の強さと、理解と、助けを与えてくださいました。

御霊の導き

人生の中で重大な決断をするとき、御霊のささやきを通して答えを受けるならば、バランス

生 活の中で霊的、知的、肉体的、社会的、経済的な事柄に関するバランスを取るなら、永遠の命と永続する幸福に至る道筋を立てやすくなるでしょう。



毎週聖餐会に出席し、聖餐を取るならば、常に御霊を受けることができます。聖霊は、わたしたちが直面するきわめて重要な疑問に答えを見いだす助けを与えてくださいます。

の取れた幸せな人生を送ることができるでしょう。では、わたしたちの求める御霊と答えは、どのように得ることができるでしょうか。

まずお勧めしたいことは、毎週聖餐会に出席して聖餐を受けることです。聖餐を受けることにより、キリストを覚え、わたしたちのためにキリストが苦しまれたことを覚えておくことができます。またバプテスマを受けたときと同じように、御子の御名を受けると聖約します。そして戒めを守るという聖約を新たにします。なぜわたしたちは、これらすべてのことをするのでしょうか。答えは聖餐の祈りの最後の部分にあります。「いつも御子の御霊を受けられるように」これらのことを行うのです(教義と聖約20:77)。

聖霊を伴侶とするための鍵はここにありません。この鍵は、わたしたちが直面するきわめて重要な疑問に答えを見いだす助けになります。そのほか、定期的にひざまずき、祈るべきです。進んで同胞に仕えるべきです。愛をもって恐れずに助けの手を差し伸べなければならないのです(1ヨハネ4:18参照)。

御霊を受けられるよう主に求め、御霊の影響を受けるために必要なことを行うならば、御霊はすべてのことを教えてください。わたしたちの勉学を助け、人生の進路を定められるよう助けてくださいます。また、平安と穏やかな気持ちを与えてくださるでしょう。

祈りについてのたとえ

最後にルカによる福音書第18章1節から8節を引用します。

「また、イエスは失望せずに常に祈るべきことを、人々に譬で教えられた。

『ある町に、神を恐れず、人を人とも思わぬ裁判官がいた。

ところが、その同じ町にひとりのやもめがいて、彼のもとにたびたびきて、「どうぞ、わたし

を訴える者をさばいて、わたしを守ってください」と願いつづけた。

彼はしばらくの間聞き入れないでいたが、そののち、心のうちで考えた、「わたしは神をも恐れず、人を人とも思わないが、

このやもめがわたしに面倒をかけるから、彼女のためになる裁判をしてやろう。そうしたら、絶えずやってきてわたしを悩ますことがなくなるだろう。』

そこで主は言われた、『この不義な裁判官の言っていることを聞いたか。

まして神は、日夜叫び求める選民のために、正しいさばきをしてくださらずに長い間そのままにしておかれることがあろうか。

あなたがたに言うておくが、神はすみやかにさばいてくださるであろう。』

主は祈りを聞き、こたえてくださいます。わたしたちは主に祈りますが、時として、あまりにも早くあきらめてしまう傾向があります。粘り強くなる必要があるのです。

全世界に証を述べるために召されたイエス・キリストの特別な証人として(教義と聖約107:25参照)、わたしはイエス・キリストが生きておられることを証します。イエス・キリストはわたしたちの救い主です。イエス・キリストは皆さんを御存じであり、そしてわたしを御存じです。わたしたちが考えていること、感じていることを御存じです。毎週、聖餐を取るときに交わす聖約を守るなら、イエス・キリストは御父に対するわたしたちの弁護者となってくださいます。

バランスの取れた生活を送るように努めるならば、世に打ち勝つことができます。いつも御霊を求め、御霊の促しに忠実に従うならば、祝福を受けるでしょう。■

2006年3月1日、LDSビジネスカレッジでのディボーションから

注

1. 「人生の求めにバランスよく応じる」『聖徒の道』1987年7月号、14参照
2. *History of the Church*, 第5巻、499
3. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 31-32
4. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 33
5. 「生活にバランスを」『リアホナ』2000年3月号、4、7参照

御存じでしたか？

女王の金メダル

イングランド・ノリッチステーク、キングズリンワードに集うクリストファー・ビンゴーは、幼いころに受けたひどい脳の損傷を乗り越え、去年、Aレベルで6つのグレードAを取りました。(訳注——Aレベルとはイギリスの中等教育で行う試験の一つ。大学進学を希望する高校生が2年間のコースの中で受験する。グレードAは受験者の上位10パーセントに与えられる最高の評価。)それは、大学の入学試験や入学後のクラス分け試験で6つの科目を受け、そのすべてで良い成績を修めるのと同じくらいの快挙なのです。この驚くべき偉業に対し、クリストファーは学業で優秀な成績を残したとして「女王の

金メダル」を贈られました。

クリストファーはエリザベス2世女王から賞を受けました。「女王は優しく、気さくな方でした」と語るクリストファーは今、イングランドのリーズで伝道しています。クリストファーは、女王にこの教会の伝道活動について少し話すこともできました。

クリストファーは6歳のとき、道路を渡っている途中で車にはねられました。昏睡状態が5日間続き、脳に血の塊ができましたが、医師も驚くほどの快復を遂げました。クリストファーの事故と快復の様子を伝えられたエリザベス女王は、冗談でこう言いました。「多分、それで頭がもっと良くなったのでしょうか。」



写真：ビンゴー家の厚意により掲載

どういう意味でしょう？

シオン——主はわたしたちに「シオンの大義を起こして確立する」ようお命じになっています(教義と聖約6:6)。シオンとは何でしょうか。定義の一つは「心の清い者」です(教義と聖約97:21)。シオンという言葉は、このように主の民、または教会とそのステークを指す言葉として度々使われています(教義と聖約82:14参照)。わたしたちは、住む場所がどこであろうと、そこでシオンを築くように期待されています。

シオンは特定の場所を指す言葉でもあります。

- エノクの町(モーセ7:18-21参照)
- 古代の町エルサレム(列王上8:1参照)
- ミズーリ州ジャクソン郡に建設される新エルサレム(教義と聖約57:1-3参照)

指導者へのヒント

長い間大管長会で顧問を務めたN・エルドン・タナー管長(1898-1982年)は、優れた指導者になるためにはキリストの模範に従わなければならないと教えました。そして、偉大な指導者になるための9つの提案をしています。

1. 完全な指導者の模範として、救い主を目標とする。
2. 教師であり僕であるという役割を受け入れる。
3. 正しい原則を学ぶために聖文を研究する。
4. 導きを求めて祈り、耳を傾け、受けた答えに従う。
5. 一人一人が自分自身を治めることができるよう助ける。
6. 一人一人に、自分の仕事に責任を持たせる。
7. 感謝の気持ちを十分に伝える。
8. 教えている事柄と一致した行いを模範で示す。
9. 神の預言者である大管長の声に耳を傾け、その助言と模範に従う。

「救い主が導かれたごとくに」『聖徒の道』1978年1月号、4から



「不思議なことに、愛と寛容による赦しは、ほかの方法では起こせない奇跡を起こすことがあります。」

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長
「赦す」『リアホナ』2005年11月号、84

尋ねる勇氣

ライオンファイリン
頼張惠玲

1994年の夏、台湾の台北にある学校に通っていたわたしは、苗栗にある実家に戻って夏休みを過ごすことにしました。実家にいる間、花屋でアルバイトをしました。そのときの出来事を思い出すと今でも喜びで胸がいっぱいになります。

ある日、植物に水をやっていると、電動車いすに乗った男性が花を眺めようと車いすを止めました。店内に招

きましたが、遠慮した様子で中に入っては来ませんでした。それでもその人のことが深く心に残りました。その後、何度か通りで偶然に会うことがあり、お互いに笑顔で会釈を交わすようになりました。

ある暑い日のことです。レストランで大好きなかき氷を食べていたわたしの肩をたたく人がいました。あの車いすの人です。きちんと身なりを整え、満面の笑みを浮かべていました。そして勇敢にもわたしの名前と電話番号を聞いて去って行きました。

数日してその人から電話があり、教会の食事会に招待されました。友達に背中を押されて恐る恐る行ってみました。食事もおいしかったのですが、玄関を入るとすぐに教会の人たちがあ

いさつをしてくれて、わたしは歓迎されていると感じました。その晩、別の会員がわたしの台北の住所と電話番号を尋ね、住所の近くの宣教師にわたしのことを知らせてくれました。こうして末日聖徒イエス・キリスト教会との永遠の結びつきが始まったのです。

1994年の秋、わたしはバプテスマと確認の儀式を受け、1997年に専任宣教師として伝道に出ました。伝道を終えてから2年後、帰還宣教師と結婚し家族を築き始めました。

こうした祝福のすべてが実現したのは、一人の教会員にわたしの名前と連絡先を尋ねる勇氣があったおかげです。当初はまったく知らない人でしたが、やがてわたしを救い主の福音へと導いてくれました。彼のことを思う度に、モルモン書の中で学んだ次の聖句が浮かんできます。「わたしには、あなたがたの永遠の幸いを願う以外に何の目的もないのである。」(2ニーファイ 2:30) ■

ある日、植物に水をやっていると、電動車いすに乗った男性が花を眺めようと車いすを止めました。その人のことが深く心に残りました。



じ、わたしはホームに降りました。列車の切符は往復で買っていて、バスの切符まで買う余裕はほとんどありません。しかし乗ってはならないという思いはあまりに強く、無視することができませんでした。

まだ教会員になってそれほどたっていませんでしたが、わたしはバプテスマと確認を受けたときに御霊を感じていました。そして列車に乗り込もうとした瞬間、「乗ってはいけない!」という静かな声を聞いたのです。再びその声がするかどうか、少しの間静かに耳を澄ませると、やはり「乗ってはいけない!」という声がありました。

駅を出てすぐ、温かい気持ちになりました。自分の決断は正しかったのです。バスターミナルに到着してから1時間以上も待って、ようやくわたしの住むコベントリー行きのバスに乗ることができました。列車で帰っていたらもう着いていたのにも思いました。バスがコベントリーに着いたときはもう夕方近くになっていました。

テレビのニュースをつけたわたしは映像を見てぞっとしました。わたしが乗るはずだった列車がナニトン駅付近で脱線事故を起こしたのです。多くの乗客がけがをし、中には亡くなった人もいたということでした。

わたしは列車に乗るといつも機関車のすぐ後ろの1両目に乗ることにしていましたが、事故に遭った列車はその辺りが最もひどく損傷していました。当然ながら、もしあの静かな細い声に耳を傾けていなかったら自分はどうなっていたのかと考えました。また、もしわたしが重症を負うか命を落とすかしていたら、亡くなった先祖のための家族歴

列車に
乗り込もうと
した瞬間、
「乗ってはいけない!」
という静かな声を
聞きました。

も乗り越えられるような気がしていました。バスを降りると、1マイル(約1.6キロ)ほど離れた

鉄道駅まで歩いて行きました。ホームは列車を待つ人でごった返していました。時折、駅のアナウンスが列車の発着を告げています。

程なくして、待っていた列車が到着しました。デッキに足を乗せた瞬間、はっきりとした思いが浮かびました。この列車に乗ってはならない、家にはバスで帰らなくてはならないと強く感

警告の声

サンドラ・ゲーツ

体調を崩していたわたしは、何日か両親の家で休んでいました。いよいよ自分の家に帰る日となり、両親に別れを告げ、イングランド中部にあるレスター行きのバスに乗り込みました。窓越しに家々が過ぎ去り、日常生活に追われる人々が慌ただしく行き交う様子を眺めていました。1976年のよく晴れた夏の日のことでした。心は満ち足りていて、どんな荒波



史の探求や神殿の儀式の執行を終えることができなかつただろうということも、自然と頭に浮かびました。

聖霊の警告の声、そして確認の声に感謝しています。聖霊の声に耳を傾けるならば、誤った道にそれることはないと知っています。■

祝福が必要でした

イエベス・ラオエリーナ

2005年2月の冬、アラバマ州の寒い森の中で陸軍士官学校の最終訓練を受けていたときのことです。いてつくような寒さの中で、わたしたちは少数歩兵部隊の戦術訓練に明け暮れていました。ある晩、降りしきる冷たい雨の中で、わたしたちは一夜を過ごすためのテント設営に悪戦苦闘していました。

惨めでした。凍傷にかかった手足は動かす度に痛みました。頭からつま先までずぶぬれで、体中がガタガタと

震えていました。さらに追い打ちをかけるように、以前に何度か患った肺炎をまた起こしかけているという恐怖に駆られていました。

もう投げ出そうかという思いが脳裏をかすめました。しかしそのとき、開拓者の苦難を思い出したのです。手車で旅を続けた彼らは、望み半ばで倒れるかもしれないという状況にも決してあきらめることはありませんでした。わたしはこの訓練をまっとうしようとして固く決心しました。士官になるという目標に向けて家族とわたしが払った犠牲は、ここであきらめるにはあまりにも大きなものでした。訓練を続ける力を求めてわたしは天の御父に祈りました。

その夜は一睡もできませんでした。翌日になると具合はますます悪くなり、わたしは弱り切ってしまいました。寒さの中で何時間にも及ぶ訓練をこなす、痛みもせきもひどくなるばかりです。

凍傷にかかった手足は動かす度に痛みました。さらに追い打ちをかけるように、以前に何度か患った肺炎をまた起こしかけているという恐怖に駆られていました。

わたしの様子に気づいた指揮官が、何時間か暖かいテントの中で休むようにと命令しました。

素足でぬかるみに立ち、びしょりとぬれた服を干しながら、神権の祝福を受けたいと心の底から思いました。すると突然テントの入り口をめくり、二人の士官候補生が入って来ました。その中の一人はスコット・ランデルといい、雑談を始めると、どういふわけか海外旅行の話題になりました。スコットは兵役に就く前、2年間フィリピンにいたと言いました。御霊はすぐに、スコットが帰還宣教師であると告げました。

「フィリピンでは何をしていたのですか」とわたしは尋ねました。

彼は「いや、ちょっと教会の関係で」と言いました。

「あなたは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員ですか」とわたしは尋ねました。

「ええ、そうです」という答えが返ってきました。

「わたしもなんです。」

わたしはそう言って握手をし、スコットに祝福をしてもらえないかと尋ねると、彼は快く引き受けてくれました。わたしはぬかるみにひざまずきました。そして祝福を受けるとたちまちに癒されたのです！体が力を取り戻し、せきも収まりました。病は消え去ったのです。わたしは無事に訓練を終え、1か月後に士官になることができました。

天の御父はわたしたち一人一人を心から大切に思っておられます。神への信仰を働かせるときに、御心みこころにかなった方法で祝福を与えてくださいます。御父は最も困難なときに支えてく

ださるのです。

スコット・ランデルは2006年11月25日にアフガニスタンで戦死しました。彼のことはよく知りませんでしたが、わたしには大きなショックでした。人生の一大事に、御父は彼をわたしのところに送ってくださったのです。彼のことは一生忘れません。そして、ふさわしい神権者から与えられた特別な祝福を、生涯心に刻みつけておくつもりです。■

あかし 二つの証の力

キャシー・トルーマン

ある日、家の近くにあるデゼルト産業再生品店で本を眺めていると、モルモン書を買って復活祭の朝に友人にプレゼントしようと思立ちました。きれいな古本のモルモン書を見つけてかごに入れ、さらに店内を見て回っていると、もっと状態の良さそうなモルモン書が目にとまったので、かごに入れていたものと取り替えてレジへ向かいました。

家に帰るとモルモン書を机の引き出しにしまい、復活祭の日までそのままにしておきました。当日、引き出しから取り出し、中のページに証を書くことにしました。

ところがモルモン書を開けると、何と25年前のわたしの家族の写真がはってあるではありませんか。写真の下には父の証が書き込まれて

いました。父は最近亡くなったばかりでした。証を読むと涙があふれ、父がすぐそばにいるような気がしました。

わたしが10代のころ、エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)が教会の家族に向けてチャレンジをしたことを思い出しました。モルモン書に家族の写真をはって証を書き、世界中の伝道部に配付するために教会本部へ送るというものです。¹ わたしがこのモルモン書を見つけた場所は、家族とともにこのモルモン書を初めて手に取ったかつての我が家から何百キロも離れていました。

わたしは父の証に自分の証を添えて、友人に渡しました。そして、モルモン書に写真と証を載せるというプログラムによって、友人とわたしが祝福を受けたことを天の御父に感謝しました。友人は、父の証とあの特別な「偶然」にとりわけ感動し、やがてモルモン書に対する自身の証を得てバプテスマの水に入りました。

ベンソン大管長の靈感に心を動かされたこと、また25年後に再び同じモルモン書を手にするという祝福にあずかったことで、わたしはさらに証を強めることができました。■

注

1. 「モルモン経で洪水のごとく地を満たす」『聖徒の道』1989年2月号、5参照

家の近くにある
デゼルト産業
再生品店で

本を眺めていると、
モルモン書を買って
復活祭の朝に
友人に
プレゼントしよう
と思立ちました。

読者からの便り

『リアホナ』を贈る

いつも『リアホナ』を読んでいます。神殿の業や教会の召しについて、またどのように神を愛するかなど、実に多くのことを学べるからです。読むと心がとても和らぎます。たくさんのことを学び、考えもはっきりとしてきます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長のメッセージはいつも心に響きます。新しく教会員になった人や教会から足が遠のいている人に『リアホナ』を渡しました。彼らも良い影響を受け、自分で購読するようになりました。

フィリピン、ジョセフィーヌ・A・マンソン

友達に贈る最高のプレゼント

『リアホナ』が大好きです。購読していない姉妹たちに家庭訪問メッセージを伝えていることもあり、手もとに届くのを心待ちにしています。『リアホナ』は友達に贈ることのできる最高のプレゼントだと思います。

ブエルトリコ、イサベル・メディナ・メンデス

すべての人にとって大切なもの

『リアホナ』の題材はとても分かりやすく、大変興味深いと思います。特に大管長会メッセージが好きです。いつも何か得るものがあるからです。大管長会メッセージには、御父のすべての子供たちが必要とする霊的な勧告がたくさん盛り込まれています。読むす

べての人にとって、それは天について教えてくれる豊かな泉なのです。

ドミニカ共和国、アナ・エンカルナシオン

『リアホナ』を読み返す

『リアホナ』はわたしにとって祝福です。欠かすことができません。2003年9月号を読み返しました。「もう少し背が高かったら」という記事に改めて啓発されました。伝道の準備をしていたときにも読んだのですが、今回は帰還宣教師として読みました。以前とはまた違ったすばらしい感動がありました。

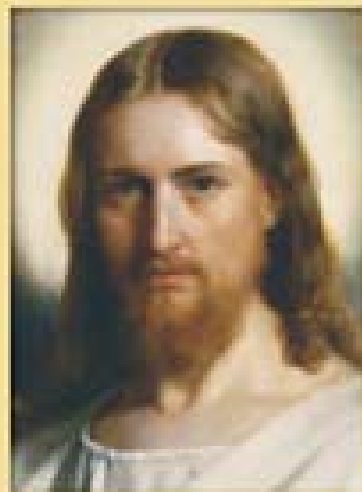
しなければならぬことが多すぎると思うこともあります。しかしこの記事を読み返したとき、キリストのようであり続けるべきだということを思い起こしました。人生はいつも公平とは限りませんが、最善を尽くそうと決意を新たにしています。

フィリピン、ジョージア・バブラヤ

衛星放送で見る総大会

総大会の様を衛星放送で初めて見たとき、大変感激しました。生ける預言者と中央幹部に感謝する気持ちでいっぱいになりました。救い主と天の御父^{あかし}についての証を聞き、また、高い所から靈感と力を受けて語る言葉を耳にして、わたしたちは皆、霊的に新たな者となります。衛星放送を見た後は、前へと進み続ける力をさらに受け、次の大会が待ち通しくてたまらなくなります。また、機関誌に載る総大会の特集も、特に総大会を衛星放送で見ることができない人にとって大きな慰めになります。

コスタリカ、フェリベ・ウルピナ



「少年とキリスト」の一部、カール・ヘンリック・プロック画

来月号のお知らせ

教 会員はよく「モルモンはキリスト教徒ですか」と尋ねられます。来月号はこの質問の答えになるでしょう。すべての記事が、救い主イエス・キリストへの信仰に焦点を当てています。以下はその内容の一部です。

- 旧約聖書の神、復活された主としての役割を含め、ゴードン・B・ヒンクレー大管長がわたしたちの信仰の中心である救い主について証します。
- 十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老が、イエス・キリストへ力強い信仰を持つことについて説いています。
- 七十人会長会のD・トッド・クリストファーソン長老が、主の証人になる方法を教えてください。

わたしたちと信仰を異にする人々に来月号を紹介するアイデアについては、本号のチャーチ・ニュースにある関連記事を参照してください。





「5人の思慮深いおとめ」ルイーズ・パーカー画

ハワード・W・ハンター大管長(1907 - 1995年)は、教会の大管長としての短い務めの中で、遠隔地に住む会員も含め、すべての会員が有効な神殿推薦状を持つようにと勧めました。

この絵はナイジェリアの二人の女性にまつわる実話を基に描かれています。

当時、参入できる神殿が近づくになつたにもかかわらず、彼女たちは神殿推薦状を得るために、往復29キロの道のりを歩きました。



わ たしたちには
責任を持たなければならない
4つの事柄があります。
家族に対して、雇用主に対して、
主に対して、
そして自分自身に対しての責任です。
これらの責任をないがしろにしたり、
その難しさに圧倒されたりせず、
適切なバランスを取るにより、
永続する幸福な人生を
送ることができるのです。
「バランスの取れた生活を送る」
38ページ参照

